連想式漢字記憶術

第三章

漢字の部首のルーツ

部首の名前と役目

漢字のほとんどが二つ以上の文字の組み合わせによってできている、ということをお話しました。この場合、その組み合わせ方にいろいろありますので、それについてひと通りお話しておきたいと思います。

左と右とに分けることができる場合、左の部分を**扁**（へん）と言います。扁は、普通、その字が何に関係あるかを表わしています。

亻（人扁（にんべん））人の意味……仕・休・作

王（玉扁（たまへん））玉の意味……球・珠・理

阝（小里扁（こざとへん））崖がけの意味……陸・防・院

ネ（示扁）神の意味……神・社・礼
衤（衣扁）衣類の意味……初・複・補
忄（立心扁）心の意味……性・情・快
貝（貝扁）お金の意味……財・貯・購
金（金扁）金属の意味……銀・銅・鉄
月（月扁）月の意味……朧・朓・朏
月（肉月）肉体の意味……腹・腸・脳
禾（ノ木扁）稲の意味……稲・秋・種
犭（獣扁）獣類の意味……狩・犯・狂
巾（巾扁）布の意味……帆・帽・幅
彳（行人扁）道の意味……行・役・後
氵（三水）水の意味……海・湖・波

同じ月でも、月の意味の時は〝月扁〟と呼びますが、肉体のしるしの時は〝肉月〟と呼びます。これは、もと肉だったのが、省略されて、月になったものです。このほか、月には、舟が省略されて月になったもの のもあります。これは、〝舟月〟ということになります。朕、前、朝の月がこれです。

ネと衤とは、大変よく似た扁ですので、注意しましょう。意味の上では大変な違いがあります。

阝は〝つくり〟に用いられる「大里」と同じ形なので、〝小里扁〟と呼ばれますが、意味は全く違いますので注意して下さい。崖という意味の部首なので、〝崖扁〟と呼んだ方が良いのですが、昔から、〝小里扁〟と呼ばれています。

なお、彳は〝道扁〟、氵は〝水扁〟、忄は〝心扁〟、巾は〝布扁〟と改めた方が分か

りやすいと私は思っています。

右の部分は**旁**（つくり）と呼ばれています。言葉としての性格的、基本的な意味と発音とを表わすことの多い、重要な部首です。第一章で解説された「奐・且・青・主……」というような部首がこれです。

しかし、次にあげる部首は、その字が何に関係あるかを表わす部首で、これらの部首が旁に使われる字は、逆に扁が言葉としての性格的基本的意味や発音を表わします。

頁（大貝（おおがい））頭の意味……頭・顔・額
阝（大里（おおざと））邑（まち）の意味……都・郡・郷
彡（三旁（さんづくり））飾（かざり）の意味……形・彫・杉
隹（旧鳥（ふるとり））鳥の意味……雄・維・難
刂（立刀（りっとう））刀の意味……判・別・創
力（力（ちから））努力する意味……勤・動・励
欠（欠（あくび））口を開く意味……歌・飲・吹
殳（ル又（るまた））武器を持つ意味……殺・役・殴
攵（ノ文（のぶん））鞭を持つ意味……政・敦・牧

- 頁は、貝に似た字形なので、〝大貝〟という名前がありますが、意味は全く貝に関係がありません。鼻（自）を中心にした顔、または頭の意味の部首です。
- 阝は、扁の所で話しましたように〝小里扁〟と全く同じ形ですが、旁では〝大里〟の名の通り〝町〟という名の部首です。邑→阝の簡略化した形です。

隹は、鳥という今の字形に対して、古い字形という意味で〝ふる鳥〟と言います。

- 欠は、ㄅ人で、〝あくび〟が本義の字ですから〝あくび〟という名が付けられました。
- 欠と攵は、字形がよく似ていますが、意味が全く違いますので注意しましょう。

かんむり

上と下とに分けることができる場合、上の部分は**冠**（かんむり）と言います。また、**頭**（かしら）と呼ぶものもあります。扁（へん）と同じく、その字が何に関係あるかを表わすことが多い部首です。

宀（宀冠（うかんむり））家の意味……家・安・客
穴（穴冠）穴の意味……空・究・窓
艹（草冠）草の意味……草・花・英
竹（竹冠）竹の意味……筆・管・等
雨（雨冠（あめ））気象の意味……雲・電・震
癶（発頭（はつがしら））両足をそろえた形……発・登・突
耂（老頭（おいがしら））老人の意味……老・考・孝

あし

下の部分は**脚**（あし）と言います。**沓**（くつ）と呼ぶこともあります。次に挙げる脚は、その字が何に関係あるかを表わす部首です。

儿（人脚（ひとあし））人の意味……兄・光・先
皿（皿（さら））容器の意味……盛・益・盟
灬（連火（れんが））火の意味……照・熱・然
小（下心（したごころ））心の意味……恭・慕
氷（下水（みず））水の意味……泰・求

連火は、火の変形で、点が連なっているので、〝連火〟と呼んだものです。〝四つ点〟と呼ぶこともあります。小は心の変形、氷は水の変形です。下心・下水の下は脚の意味です。

上から下に垂れ下がった形のものを、**垂**（たれ）と言います。扁と冠とを合わせたような形をしていて、その働きも、扁や冠に似ています。その字が何に関係あるかを表わす部首です。

厂（雁垂（がんだれ））崖の意味……原・厚・圧
广（麻垂（まだれ））広い家の意味……店・庭・府
疒（病垂（やまいだれ））病気の意味……病・疲・痛
戸（戸垂（とだれ））戸の意味……肩・房・扇
尸（屍（しかばね））人の意味……居・屈・属

扁と脚を合わせたように、左下の部分にわたるものを、**遶**（にょう）と言います。その働きは垂と全く同じで、その字が何に関係あるかを表わしています。

辶（進遶（しんにょう））道を行く意味……進・送・近
廴（延遶（えん））遠く行く意味……延・建・廷
走（走遶（そう））走る意味……起・越・趣

・辶と廴は、旁を書いてから、これを書きますが、走は先に書いて、旁をあとから書きます。

外側を囲むような形を**構**（かまえ）と言います。「冂」や「匚」のように三方を囲んだ形、「勹」や「弋」のような垂に似た形のものもあります。働きは、その字が何に関係あるかを表わしています。

冂（国構（くにがまえ））物を囲む意味……国・団・図
匚（箱構（はこ））箱の意味……医・区・匿

門（門構）門の意味……問・聞・関
气（気構）蒸気の意味……気・氛
行（行構）道の意味……衛・術・街
戈（戈構）武器の意味……我・戒・或
弋（式構）標識の意味……式・弐
勹（包構）包む意味……包・勺・匁

仮借と転注

昔から、漢字の構成については、「六書」ということが言われています。第一章には、四つの方法があると言って、「象形」「指事」「会意」「形声」についてお話しました。六書というのは、この四つに、「仮借」と「転注」を加えたものです。

象形と指事が基礎になり、会意と形声で、すべての漢字ができ上がったのですが、漢字の使い方の上で、仮借と転注という二つの方法があって、本義とは異なった使い方が行なわれているのです。

仮借とは、仮に借りるという意味の言葉です。その漢字の意味とは無関係に、発音だけを借りて表わす方法のことです。たとえば、「拾」はひろうという意味の字ですが、数字の十と同じ発音なので、数字として「拾円」と使うのが仮借です。この方法は、中国では、仏教が伝来した時にたくさん行なわれました。印度の言葉を、漢字の持つ意味に関係なく、表音的に使ったのです。たとえば「南無」という言葉がこれです。今でも、アメリカを「亜米利加」、ドイツ「独逸」、コーヒーを「珈琲」と書くのは仮借です。

転注とは、車が転々ところがって、元の位置から離れていくように、また、川の水が流

れ流れて山から遂には海に注ぐように、漢字の本義が転々と変化することを言います。たとえば、「楽」という漢字は、𦍒で、楽器の象形です。〝楽器〟が本義ですが、同時に、楽器で演奏される〝音楽〟という意味にも使われます。ところが、音楽を聞けば、〝たのしい〟気持になるというので、この楽という漢字で、この気持を表わすことになりました。このように、〝楽器〟→〝音楽〟→〝快楽〟というように、漢字の意味が転々と変化するのが転注です。

このように、漢字は、文字としては、象形、指事、会意、形声のいずれかで、でき上がっているのですが、実際の用法としては、転注や仮借により本義とは異なった意味で使われている場合がかなりあるのです。

漢字の音訓

漢字には、音と訓とあるのが普通です。**音**とは、漢字が日本に取り入れられた時の中国読みのことであり、**訓**とは、その漢字にあたるわが国の言葉のことです。

たとえば、「花」という漢字は、中国では「カ」と読むので、「カ」が音です。「造花」「花瓶」という使い方がこれです。ところが、この字は、わが国では「はな」という言葉にあたりますので、「花」を「はな」と読む読み方が生まれました。これが訓です。「花見」「草花」という使い方がこれです。

中国は、広さから言えばヨーロッパ全体に匹敵する広さがありますから、同じ漢字でも、その地域によっては随分違った発音をします。また長い年代にわたって日本に入って来ましたので、一つの漢字にいくつもの音がある漢字があります。また、漢字によっては、わ

が国のいくつかの言葉にあたるものもありますので、一つの漢字でいくつもの訓を持った漢字もあります。

たとえば、「下」という漢字は、「地下（チカ）」「下水（ゲスイ）」「下町（したまち）」「川下（かわしも）」「下る（くだ）」「下げる（さ）」「下（もと）」など二つの音と五つの訓とを持っています。

「チカ」という音は、**漢音**と言います。これは、わが国が、中国と正式に国交を結ぶようになって、唐の国都長安の標準的な発音を取り入れたものです。漢字の標準音という意味で「漢音」と呼んだものです。聖徳太子の時代から、平安朝初期にかけてでき上がりました。

「下水（ゲスイ）」という音は、**呉音**と言います。中国と正式な国交を結ぶ以前、仏教などの経典と共に取り入れた音で、仏教に関係ある言葉やその他特別の使い方が多く、漢音に比べると、数は少ししかありません。揚子江の下流地方を「呉」と呼びますが、この地方の発音なので、「呉音」という名称があります。

ずっと後になって、中国の「明」「清」時代の発音で読まれるものも、極めて僅かですがあります。これを**唐音**と呼びます。これは、中国人のことを、「唐人」と呼んでいたためかと思われます。「実行（じっこう）」「行進（こうしん）」は漢音、「行列（ぎょうれつ）」「奉行（ぶぎょう）」は呉音、「行宮（あんぐう）」「行燈（あんどん）」は唐音です。これは、同じ album が、英語ではアルバム、独逸語ではアルブム、仏語ではアルボム、と発音されるようなものです。それより広大な中国のことですから、発音が複雑になるのは止むを得ないことです。

重箱読みと湯桶読み

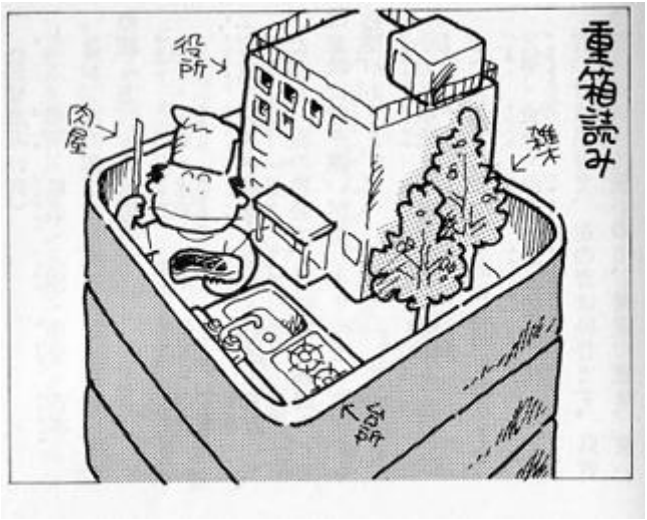
多くの漢字は、二つ以上組み合わせられ、熟語として使われます。この場合、上を音読みすれば下も音読み、上を訓読みすれば下も訓読みするのが普通です。しかし、「重箱（ジュウばこ）」のように、古くからの習慣で、上を音読みして下を訓読みするものや、「湯桶（ゆトウ）」のように、上を訓読みして下を音読みするものもあります。前者のような読み方を、俗に、「重箱読み」、後者のような読み方を「湯桶読み」と言っております。

（重箱読みの例）カタカナは音、ひらがなは訓。

役場（ヤクば）・中古（チュウぶる）・肉屋（ニクや）・台所（ダイどころ）・雑木（ゾウき）・本場（ホンば）

（湯桶読みの例）

見本（みホン）・場所（ばショ）・組曲（くみキョク）・月別（つきベツ）・身分（みブン）・古本（ふるホン）



なお、次の例は、音読みと訓読みと二通りの読み方のある熟語です。

上下（ジョウゲ）・父母（フボ）・水車（スイシャ）・草木（くさき）・年月（ネンゲツ）・山道（サンドウ）

うえした　ちちはは　みずぐるま　くさき　としつき　やまみち

音色（オンショク）・昼間（チュウカン）・春風（シュンプウ）・雨水（ウスイ）・白雲（ハクウン）・荒野（コウヤ）

ねいろ　ひるま　はるかぜ　あまみず　しらくも　あれの

ただし、次の熟語は、音読みと訓読みとでは意味にやや違いがありますので、注意する必要があります。

小刀（ショウトウ）・根元（コンゲン）・市場（シジョウ）・頭数（トウスウ）・勝負（ショウブ）

こがたな　ねもと　いちば　あたまかず　かちまけ

また、音読みに二通りある熟語もあります

兄弟（ケイテイ）・金色（キンいろ）・白衣（ハクイ）・強力（キョウリョク）・明星（メイセイ）

キョウダイ　コンジキ　ピャクエ　ゴウリキ　ミョウジョウ

右の音は漢音で、左の音は呉音です。呉音は歴史が古くて長いので、特定の意味、使い方をするものが多いようです。これらは、漢字に関係なく、言葉として使用されている、という感じの特に強いものです。

以上で、漢字の見方、考え方について、おおよそおわかり頂けたと思います。そこで、今度は、部首を一つ一つ系統的に調べていくことにします。これから示す部首を全部理解して覚えておくならば、初めて見る漢字でも、きっと、何とか解くことができると思います。そのつもりで、一つ一つ、じっくりと字形を観察し、その意味内容を考えて頂きたいと思います。

部首

■人体に関する部首

おもな八つの部首をあげてみました。部首としてみれば、これが人体を表わしているのか、と思うような形のものもありますが、ちょっと手を加えてみますと、りっぱに人間の形を表わしたものであることがよくわかると思います。

人は、独立しても用いられる部首ですが、他の部首は独立して用いられることはありま

せん。

从は、「従（旧字体は従）」の最も古い形です。今の中国では、この最も古い形を採用しています。人が前を行く人に〝したがう〟意味を表わした会意字です。後に 彳 がついたものです。辵は、辶の古い形です。丸通では[illegible]という古い形を使っています。

人人は、衆の古い形で、中国の新字でもあります。これが変形して**血**となり**氷**となりました。人三人で、「大衆」という意味を表わした会意字です。血は、最初は目で目でした。

亻は、人扁（にん）と呼ばれて、最もありふれた形で、どなたも御存知の部首です。

仁は、〝人二人〟という意味の字です。人が人に対して抱く〝人情（ヒューマニティー）〟を表わした字です。孔子は、これを人間道徳の最高のものとしました。音は人（ジン）です。

位は、〝人の立つところ〟という意味の字です。位置。地位。官位。

依は、〝衣類が人体にまといつく〟ことから、〝よりつく〟意味を表わした会意形声字です。音は衣（イ）。

使は、〝官吏は人のために働く〟ものであるから、〝人のために働く〟ことを表わした会意形声字です。音は吏（リ）の本来の音史（シ）。

匕は、ヒ（ヒ、またはハイ）という音を持っています。なまってシと読まれるものもあります。

比は、〝人がならぶ〟が本義ですが、二人並べば、すぐ比較が始まるところから〝くらべる〟という使い方が起こりました。「比翼」は並べる、「比較」はくらべる。

北は、人が背中合わせした形で、〝せなか〟が本義です。背中を人に見せることは、負けて逃げることですから、〝負ける〟という意味が生まれました。「敗北」の北がこれで

す。人は太陽の方角に向かいたがります。すると、背中は〝きた〟を向きます。そこで、〝きた〟の方角を表わす字になりました。（転注）。そのため、本義の〝せなか〟を表わす字として、北に肉をつけて「背」という字を作ったのです。音はヒ（hāi）です。

匕は、第一章の「化」の所でお話したように、〝死ぬ〟意味の部首で、音はカです。今では「匕」も「匕」も同じ字形になります。

元は、二（上の古い字体）と儿との会意字です。〝人の上の部分〟という意味で、〝あたま〟が本義です。「元首」は「頭首」と同じ意味の言葉です。一年の初頭を「元日」と言うのです。

児の旧は臼（ ）で、頭の形です。体に比較して頭の大きい人、つまり〝子ども〟を表わした字です。幼児。児童。

克の古はで、かぶとの形です。人が甲冑を着けて戦闘に〝よく耐え抜く〟という意味の字です。単に〝勝つ〟というだけの意味ではなくて、〝苦難に耐えてやり抜く〟ことです。克服。克己。

充のは、育の略形です。人を育てて〝体格をりっぱにする〟ことです。充実。はで、子を逆さにした形です。育は、子供に肉を与えて、〝そだてる〟という意味の字です。

包は、己（こども）（）を〝だきかかえる〟のが本義の字です。今は、〝つつむ〟という意味に使われていて、そのため、本義を表わすのには、扌を加えて「抱」という字を作りました。

胞は、〝腹の中の子供〟という意味の字です。胞子（音は包（ホウ））。

泡は、〝空気を包んだ水〟という意味の字です。「あわ」のことです。

尸は、腰かけて、体を伸ばしている形を表わしたものです。〝人〟〝体を伸ばす〟〝腰〟などの意味に使われます。音はシです。

居は、尸に 発音を表わす古を付けた形声字です。居士。コは呉音、漢音はキョです。

展は、尸に発音を表わす𠬝(テン)を付けた形声字です。尸の〝体を伸ばし広げる〟が本義で、今では、体に関係なく、〝広げる〟意味に使われています。展開。展覧会。

尾は、〝尻(シリ)の毛〟という意味の字です。

屎は、〝尻から出る米〟つまり〝くそ〟ということになります。

尿は、〝尻から出る水〟つまり〝にょう〟ということです。

屈は、〝腰をかがめて出る〟という意味の字です。昔は、家の出口は小さく作られていましたので、腰をかがめないと出ることができなかったのです。屈折。屈曲。

屋は、人の至り止まる所、という意味で〝いえ〟を表わした字です。家屋。屋室。

室という字も、同じ意味で作られた字です。

■人体を基にした指事字

大は、手足を〝おおきく〟広げた形で、〝おおきい〟という意味を表わしています。

夫は、人の頭に冠を加えて、〝成人〟の意味を表わした字です。昔は、成人式に初めて冠をかぶったからです。丈夫。夫婦。

立は、大の下に大地を加えて、〝たつ〟ことを表わした字です。

並は、竝の略字で、人が二人〝ならん〟で立っていることを表わした会意字です。

天は、大の頭のてっぺんに一を加えて、〝頭の顚（いただ）き〟を表わした指事字です。顚と天とは同音同義の字ですが、天は、転じて、頭の上に広がる空の意味に用いられるようになり、天の本義は顚が表わすようになりました。

士は、端然と坐っている人の形で、〝成人〟または〝役人〟であることを表わしています。紳士。武士。

仕は、人が役人として〝つかえる〟ことを表わした会意形声字です。仕官。

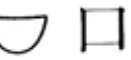
要は、手（ヨ）を腰にあてている形で、〝こし〟という意味を表わした指事字です。腰は、人体の要点なので、今の「重要」という用法が生まれました。

腰は、要が「重要」の意味に用いられるようになったため、肉を加えて〝こし〟の意味を表わしたものです。

母は、女に乳房を表わすしるしを加えて作られた指事字です。

身は、妊婦を横から見た形で、「娠」の本字です。今は「体」（身体）の意味に使われるようになったので、娠が作られました。娠は〝はらむ〟の意味です。

■顔に関する部首



古は、十と口の会意字で、〝十代にわたって口から口へと伝えられた〟ことを表わした字です。〝ふるい〟〝むかし〟という意味に使われます。古色。古人。

否は、〝違う（不）と言う〟〝いなむ〟ことを表わした、不と口の会意形声字。音は不（フ）が変化してヒ。否認。可否。

咲は、口と**关**（ショウ）との会意形声字。〝口を開いてわらう〟のが本義。「花咲」は花が笑っているのが本義で、わが国では、これを「花咲く」と読んだために、〝さく〟の訓が生まれました。

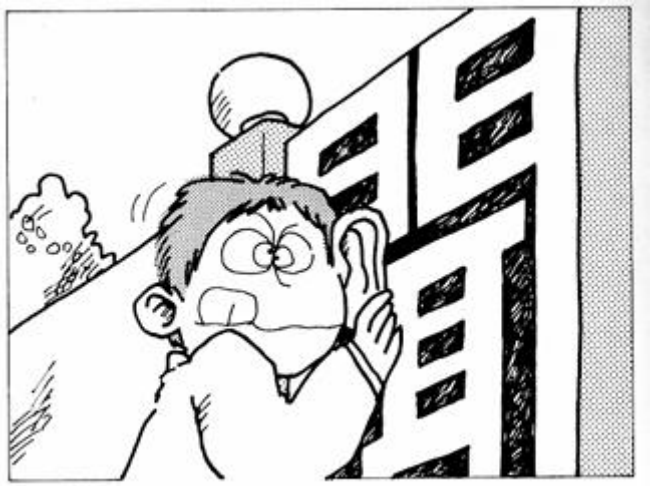
看は、手（手の変形）と目の会意字で、〝目の上に手をかざしてみる〟ことです。「見」が目の働きとしての〝みる〟ことを表わすのに対して、「看」は、見ようという意志を以て〝みる〟ことを表わしています。従って、「見」は、「見える」という使い方はできますが、「看」は「看える」という使い方はできません。また、〝面倒をみる〟意味に使います。看護。

相は、〝木の上にのぼって見る〟という意味の字です。広く、遠くまで見ようとしてみることで、見よりも深い意味を持っています。〝さぐる〟こと。人の容貌をさぐることを「観相」と言います。政治をみることから、〝君主を輔佐する〟意味にも用いられるようになりました。首相。

盲は、〝目の力を亡（うしな）う〟という意味の字で、めくらを表わした会意字です。音は亡。

取は、〝耳を取る〟という意味の会意字です。中国では、敵をたおした場合、重い首の代りに耳を取って証拠としました。音は手（シュ）。

聞は、〝門に口を寄せてとう〟（問）のに対して、〝耳を門に寄せてきく〟こ



と。音は門（モン）、漢音はブン。

聳は、物音のする方向に〝耳を従わせる〟という意味の会意形声字で、音は従（ジュウ）。〝耳をそばだてる〟ことから転じて、〝山のそばだつ〟意味に用いられます。

鼻

自は、鼻の象形で、〝はな〟が本義ですが、自分を指さす時に、鼻をさしますので、〝わたくし〟の用法が生まれました。「自分」というのは、〝私の分け前〟〝私のもの（英語のmineにあたる）〟という意味の言葉です。

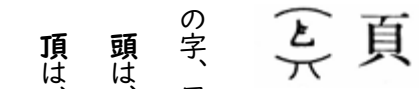
ついでに言いますと、「私」は、〝ム（わたくし）の禾（いね）〟という意味の字で、「自分」に当たる言葉です。「ム（シ）」はしで鼻の象形で、自（ジ）と同音同義の字です。「公」は、「私を分（八）割する」意味の字です

臭（旧字は臭）は、〝犬の鼻〟で、〝におい〟または〝かぐ〟意味を表わしたものです。

鼻は、自が私の意味に転用されたために、畀（毘）を加えて作った形声字です。

面

面は、自の周囲に顔の輪郭を加えて、〝かお〟の意味を表わした字です。「洗面」。転じて、「表面」「地面」など〝おもて（顔を表わす古語ですが、今では表の意味）〟の意味に使われます。



頁は、首（八）から上〝あたま〟を表わす部首です。旁（つくり）としてよく用いられます。昔から「大貝」の名で呼ばれますが、「顔旁（かおつくり）」と呼びたいものです。

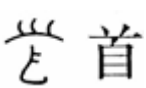
顔は、顔が本字です。文（あや）と彡（かざり）と厂（がん）との会意形声字である彦（美しいが本義の字、男子の美称としてよく用いられます）と頁との合字。音は彦（ガン）です。

頭は、豆粒のようにまるいという意味の豆と頁との会意形声字です。音は豆（とう）です。

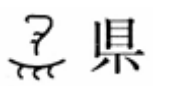
頂は、丁（ちょう）と頁との会意形声字で、〝頭のいただき〟が本義です。目上の人から物を受け取る時は、頭の頂（いただき）の高さにまで手を上げますので「頂戴する（いただく）」と言うのです。「山頂（山の頂）」は転用です。

順は、低きについて決して高きには向かわない川と頁（あたま）との会意字です。〝頭を下げてすなおに従う〟ことです。音は川（セン）が変化した巛（巡馴（ジュン））です。

項は、後（コウ）の意味の工と頁（あたま）との会意形声字で、〝後頭部〟が本義の字です。急所ですから〝大切な所〟の意味に使われます。「項目」は、書物の大切な所の意味で、全体を小わけする場合、最初の大まかな方を「項」、それをさらに小わけしたものを「目」と言います。



首は、頁（あたま）の上に髪の毛を加えた字です。〝あたま〟が本義です。元首。頭首。戦場で、敵の首を取る場合、切り落とす所が頸（くび）ですので、首が頸の意味になりました。



県は、首を逆さにした形です。〝さらし首〟の象形です。木にかけられるので、〝かける〟という意味を表わしたものです。県の旧字体は「縣」です。系は、首をかけてつるための糸を表わしています。秦の始皇帝の時、縣を、行政

上の区画の名称にしましたので、〝かける〟という意味の字は、〝心にかける〟という意味の「懸」で表わしています。「懸念」は、ケと短かく発音されます。〝心にかける〟〝気がかり〟という意味です。

懸命は、〝命がけ〟という意味の言葉です。一つのことに命がけになるのが「一所懸命」です。今では、なまって、「一生懸命」という言葉になっていますが、これでは意味が通じません。

臣は、目を大きく見開いて、〝見張る〟意味を表わした字です。臣下たる者の任務を表わしたものです。

監は**盥**で、人が皿に水を盛り、これを水鏡にして〝みる〟のが本義の字です。詳しくは第一部の監を御覧ください。

臨は、人が品物に近づいて、よく〝品定めをする〟のが本義の字です。人と臣と品との会意形声字です。音は品(ヒン)が変化してリン。今は、〝その場に出向く〟意味に使います。臨席。

甘は、口の中〝うまい〟物を含んでいることを表わした指事字です。〝あまい〟こと。音は、〝口に物を含む〟の含(カン)です。

柑は、〝甘い実のなる木〟という意味の会意形声字です。〝みかん〟のことですが、昔は、単に〝かん〟、または〝柑子(こうじ)〟と言いました。

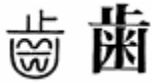
疳は、甘い物を食べすぎて起こると考えられていた、小児病〝かん〟のことです。癇と同じ病気のことにも使われます。

旨は、匕と甘の会意形声字で、人が甘い物を口にして〝うまい〟ということを表わした

字です。音は匕（ヒ）がなまってシになりました。

指は、扌と旨との会意形声字で、〝うまい物をちょいとつまむ〟ゆびを表わしました。音は旨（シ）です。

脂は、〝旨い肉〟という意味の字で、旨と肉の会意形声字です。〝あぶらぎった肉〟の意味から転じて〝あぶら〟の意味になりました。「油」が液状の〝あぶら〟であるのに対して、固型状のあぶらを言います。油脂。脂肪。



齦は、歯の根という意味の字で、〝はぐき〟のことです。音は根（コン）です。また銀（ギン）とも発音されます。歯齦炎。

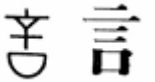
齟は、重なる意味の且と歯との会意形声字で、歯が重なるという意味の字です。〝八重歯〟のこと。

転じて、〝物事のうまくかみあわぬこと〟〝食い違うこと〟の意味に使われます。「齟齬（計画に齟齬をきたす）」

舌は、口から〝した〟を出した形を表わした字です。音はゼツですが、テンとも発音されます。

甜は、舌と甘との会意字で、〝舌に甘く感ずる〟という意味の字です。音は舌（テン）。甜菜（てんさい）。甜瓜（てんか）（スウィートメロン）。

舐は、舌と氏との形声字で音は氏（シ）。〝舌でなめる〟ことです。



言は、口と辛（ケン）の形声字で、〝ものいう〟意味の字です。〝言葉〟の意味の部首です。

計は、数の意味の十と言との会意字。〝数をかぞえること。「計数」「計算」。転じて、計画。計略。

訓は、順の意味の川と言との会意字。〝順うべき言葉〟という意味の字です。教訓。家訓。訓話。

詠は、〝言葉を永くのばしてうたう〟ことで、言と永の会意形声字。詠歌。朗詠。

詐は、作の意味の乍と言との会意形声字で、〝作り言〟という意味の字。実際にない事を作りあげて人をあざむくこと。詐欺。詐取。音は作。

評は、〝公平に言う〟という意味の、平と言との会意形声字。他人の良し悪しを、私情をさしはさまずに言うのが「批評」です。音は平です。呉音です。漢音は平。

誠は、〝成功する言葉〟という意味の成と言との会意形声字。虚偽の言葉は一時的には成功するかに見えても、決していつまでも続くものではない。〝真心から出る言葉〟こそ、成功に導く言葉である、という意味からできた字です。

誉は、與（与の旧字体）と言との会意形声字で、〝言葉を与える〟という意味の字。人の善美なる行為に対して贈る〝ほめ言葉〟のことです。毀誉褒貶。名誉。音は与。

訟は、役所の意味の公（おおやけ）と言との会意形声字で、〝官公庁にうったえる〟ことです。音は公が変化して公（松頌）。訴訟。

警は、慎しむ意味の敬と言との会意形声字で〝慎しみなさいと注意の言葉を与える〟ことです。警告。警戒。音は敬。

記は、糸の象形の己（己）と言との会意形声字。言葉を糸のように長く続けて書きとめることです。記述。記録。

語は、〝吾が人に言う〟という意味の字で、〝かたる〟こと。また、〝かたる言葉〟言語。語調。

調は、用意周到の周（よく行き届くこと）と言の会意形声字で、〝よく行き届いた言葉〟が本義です。〝ととのう〟こと。今は、ととのえるために〝しらべる〟調べるという意味に使うことが多いようです。調査。また、〝音楽の調べ〟とも使います。調子。

誕は、〝事実を引きのばし、誇張した言葉〟という意味の字で、延と言との会意字。虚誕。欺誕。実際にないことを作り出すことから「生む」意味になりました。誕生。

詞は、役人の意味の司と言との会意字で〝役人の言葉〟という意味の字です。〝りっぱな言葉〟という意味に使われます。祝詞。

誇は、夸と言との形声字で、〝大言〟という意味の字。事実より大げさに言うことです。誇張。誇大。

証は、その事が正しいという〝あかし〟を言いたてることです。音は正。証言。証人。証明。保証。

誌は、志（心の動き）を言葉にして書きとめることです。音は志。日誌。雑誌。

認は、心から〝みとめて〟よろしいと言うことです。音は刃。認可。承認。

誘は、秀言（秀れている言葉）で〝人の気を引く〟ことです。〝さそう〟こと。音は秀が変化してユウ。勧誘。誘惑。

詳は、善美の意味の羊と言との会意形声字で〝くわしくてよくわかる言葉〟という意味の字です。音は羊が変化してショウ。詳細。詳述。

談は、淡の意味の炎と言との会意形声字で、〝淡々と語る〟という意味の字です。音は淡。清談。閑談。談話。〝激せず、固くない話〟のことです。

■手に関する部首

手に関する部首は、古い字形を見ると、皆 ほとんど同じ形をしています。それが、次第に変化してきて、今見るような、それぞれに違った形をするようになりました。

手は、独立して用いられる〝て〟そのものを表わした象形字です。音は取(しゅ)です。部首としては、「挙・掣・撃」など、脚(あし)に用いられます。

扌は、扁です。

打は、釘の象形であり、釘の本字である丁と扌との会意形声字で、〝釘をうつ〟のが本義です。音は丁(チョウ)。普通は唐音ダ。打開。

拡は、〝手でおし広げる〟という意味の字で、扌と広との会意形声字です。音は広(コウ)が変化してカク。拡大(かくだい)。拡張(かくちょう)。

抄は、多くの中から、少数を抜き取るという意味の字で、少と扌との会意形声字。〝抜き書き〟のこと。抄本。抄録。

拓は、石器（昔の農具）の意味の石と打との会意字で、〝農具を手にして〟農地を〝ひらく〟ことを表わした字です。音は、石（セキ・シャク）が変化したタク。開拓。干拓。

振は、震の意味の辰と扌との会意形声字で、〝手を震わせる〟こと。振動。

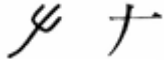
捉は、〝逃げる人の足をつかまえる〟という意味で〝とらえる〟ことを表わした字です。音は足（ソク）。捕捉。

双は、二つの手の並んだ形で、〝ふたつ〟〝ならぶ〟〝対（つい）〟などの意味を持った字です。双生児。強力無双。一双。

友は~~ナ又~~で、二人の手の重ねられた形。〝助け合う〟〝とも〟などの意味を表わしています。音は又（ゆう）です。友情。友愛。

反は、厂（かん）と又との会意形声字です。厂は崖の象形で、〝びっくり返りやすい〟所です。反は、〝手のひらをかえす〟ことです。

収は、丩（きゅう）と又との形声字で、〝手に入れる〟こと。音は丩（きゅう）が変化してシュウ。収入。旧字は收で〝罪人をとらえて責める〟のが本義。

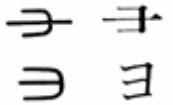


右は、食事の時、食べ物を口に運ぶ手という意味の字です。たすける（佑）という意味にも使われます。音は又（ゆう）、呉音はウ。

左は、定規（工）を持つ手という意味の字です。やはり、たすける（佐）という意味があります。中国では、右を上位としているので「左遷」は、官位を下げられるという意味を表わします。「右顧左眄（うこさべん）」は、左を見、右を見ることで、迷って人の様子をうかがい、〝ためらう〟という意味です。

右の原形は~~ナ口~~で、左の原形は~~ノ工~~です。これが筆順にも影響して、「ノ一口」「一ノ工」

となっています。

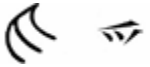


雪は、手の上に載る雨という意味の字です。雨は手に載りませんが、〝ゆき〟なら手に載ります。

筆は、竹と聿との会意形声字です。聿は𠂇の象形に⺕を加えた形で、筆を手に持つ意味の字です。〝ふで〟と〝書く〟との本字です。後、〝ふで〟は柄が竹ですので、竹が加えられて〝筆〟となり、〝かく〟には〝曰〟紙が加えられました。

建は、廴と聿との会意字で、〝筆を勤かし進める〟つまり〝計画をたてる〟ことを表わした字です。音は廴が変化してケン。「建立」は呉音で読まれ、寺院をたてる意味に使われます。

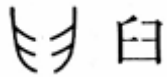
律は、〝建てられた法文を行わせる〟という意味の字で、彳と聿との会意字です。音は聿が変化してリツ。〝法を守らない者を罰するきまり〟という意味に使われています。律令。法律。



受は受で、上から渡す手と、下からこれを受け取る手との会意字です。音は手です。（現代中国語では、受と手とは同音です）

授は、受が〝うける〟ことを表わしているので、これに扌を加えて〝さずける〟ことを表わした会意形声字です。音は手です。つまり「手」「受」「授」は、言葉としては一つなのですが、用法を明確にするために、三つに書き分けたのです。

争は、爭が旧字体です。爪は、⺕に亅を持った形です。それを奪い取ろうと手をかけた形が「爭」です。〝あらそう〟こと。音は爪（そう）です。



臼は、左右の手の象形です。

申は、ナで、丨を両手で〝引きのばす〟意味を表わした字です。〝のびる〟ことから転じて〝のべる（述）〟意味に使われ、今では、専ら〝もうす〟意味に使われています。上申。申告。申請。内申。

伸は、申が〝もうす〟意味に転用されたため、本義の〝のばす〟意味を表わすために作られた字です。人と申との会意形声字。伸縮。

共は廾で、二つの手が一つの物を一緒に差し上げている形です。〝一緒〟という意味の字です。共同。共通。音は**六**（きょう）です。

供は、〝一緒に仕事をする人〟という意味で、〝手助け〟〝おとも〟という意味を表わした字です。人と共（きょう）との会意形声字。呉音はク。「供出（きょうしゅつ）」「供養（くよう）」は、共の本義〝ささげる〟という意味で使われています。

兵は、斤と**六**との会意字で、〝武器（斤）を手にする人〟という意味の字です。雑兵。

具は、貝の意味の目と**六**との会意字で、両手に溢れるほど財貨のあること、つまり、物の豊かに〝そなわる〟という意味を表わした字です。具備。転じて、〝うつわ（道具）〟の意味にも使われます。音は**六**（く）。

算は、竹と具の会意字で、〝かずとりの竹〟が本義の字です。数取りの〝算具〟です。数を数えるのに使うので〝かぞえる（計算）〟の意味になりました。

戒は、武器の意味の戈と廾との会意字で、〝手に手に武器を取って、敵の攻撃に備える〟という意味の字です。〝いましめる〟こと。警戒。破戒。

興は、**𦥑**と同の会意形声字です。〝四つの手が共同して、一つの仕事にあたること〟を表わした字で、そうすれば必ず盛んになるので、〝おこる〟という意味を表わしました。音は**六**（きょう）が変化してコウ。興隆。興亡。

與は与の旧字体です。**𦥑**が〝共にする〟という意味を表わしています。〝力を合わせる〟ことだから、〝くみする〟、また〝あたえる〟意味にもなります。与党（よとう）。給与（きゅうよ）。

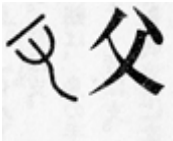
擧は挙の旧字体で、与と手との会意形声字です。〝共に、手をあげる〟という意味の字で、構造的には、興や與とほとんど同じで、同じ意味に使われています。音はキョウがつまってキョ。挙国一致。選挙。

功は、仕事の意味のエ（コウ）と努力の意味の力との会意形声字。〝努力して仕事をする〟のが本義で、〝てがら〟の意味に使われます。

動は、重い物でも力を加えれば〝うごく〟という意味の字です。音は重（ちょう）がなまってドウ。

勉は、免（べん）と力との会意形声字。免は、娩の本字です。𠙵はうと（お尻の象形）の合字。人のお尻（𠙵）にさらに人を加えて〝子を生む〟意味を表わしたのが免です。〝分娩の時に力む〟のが本義です。免は単独の時は、呉音でメンと読むのが普通です。勉強。勤勉

努は、奴隷（どれい）のように〝つとめる〟という意味の字です。〝休みなくがんばる〟ことです。音は奴（ど）。努力。



攵は、手に棒や鞭などを持った形を表わした字で、〝鞭、棒、武器などを揮（ふる）う〟という意味の部首です。音はボクです。

牧は、牛に対して鞭を揮う意味の字で、〝牛を飼う〟ことを表わしています。音は攵（ぼく）。

教は、子供に対して鞭を揮う意味の字です。音は孝（こう）がなまってキョウです。

政は、世の不正を打ちこらしめて、正しきに導くという意味の字です。音は正（せい）。

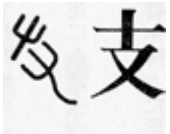
敗は、〝貝を打ちこわす〟という意味の字で、〝やぶれる〟ことを表わしています。音は貝（はい）です。

故は、古びた物を打ちこわすという意味の字ですが、〝古い〟という使い方と〝こわす〟という使い方と分かれています。音は古（こ）。故郷、故事。故障、事故。

救は、人の求めに応じて武器を揮い、〝人をすくう〟ことです。音は求（きゅう）。

改は、悪を犯した自己、に自ら鞭を加えて再びしまいと、心を あらためる〟ことです。音は己カイ（xǐ）。

放は、鞭を揮って、四方つまり外へ〝追いはらう〟ことです。音は方（ほう）です。

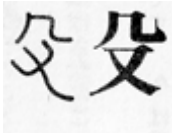


支は、沢山（十）の物を一手に〝まとめる〟意味と、その反対に、一つの手から沢山〝分かれ出る〟意味とあります。前者は、〝ささえる〟こと。支点、支柱。後者は、〝分かれる〟こと。支店、支流。

枝は、一つの幹から沢山分かれ出る〝えだ〟のことです。音は支（し）。

肢は、体から分かれ出た〝手足〟のことです。音は支（し）。

翅は、鳥の手足にあたる〝つばさ〟のことです。音は支（し）。



殳は、手に武器を持った形です。𠂇は手裏剣のような、投げつける武器の象形だと見られています。音は手（しゅ）です。

投は、〝手裏剣をなげる〟のが本義で、今では、広く〝なげる〟意味に使われます。

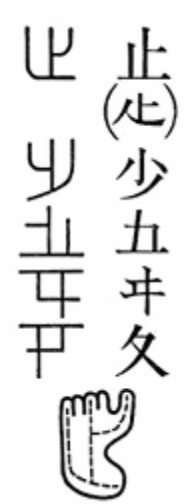
殴は、区と殳との形声字で、〝投げつける〟のが本義の字ですが、今は、〝手でなぐる〟意味に使われています。音は区（く）が変化したオウ。殴打（おうだ）。

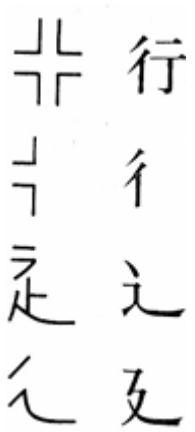
殺は、豕（いのしし）（S: サイ・シ）の変形した𠂉と殳の会意形声字で、〝家畜を打ちころす〟のが本義の字です。今では、広く〝ころす〟意味に使います。音は豕（さい）、またはサツ。

殿は、展（てん）と殳との会意形声字で、〝お尻を打つ〟のが本義の字です。「臀（しり）」の本字です。軍隊が退却する時、一番後ろになることを「殿（しんがり）」と言います。今では「殿堂」など、高大な建物の意味に使われています。音は展（てん）です。

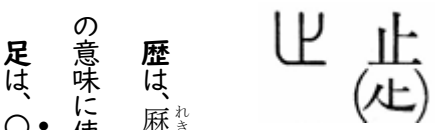
役は、〝武器を持って行く〟という意味の字で、〝戦争〟または〝いくさ仕事〟の意味に使われています。戦役。兵役。昔から兵役は若い男子の義務として〝勤めなければならない仕事〟でした。大役。役人。音は漢音がエキ、呉音がヤク。

■足に関する部首





右上にあげた五つの部首は、皆、足の裏の象形です。



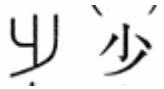
止は、右足の裏を象ったもので、ここが地面にぴったりと着いて〝立ちどまる〟というので、〝とどまる〟意味を表わしたものです。

正は、一と止との会意字で、〝人の止まるべき線〟を表わしています。〝守るべき基準〟のことです。

歴は、麻（れき）と足の意味の止との形声字で、〝足のあゆみ〟が本義です。転じて〝時の歩み〟の意味に使われます。遊歴。歴史。

足は、○（ひざ小僧の象形）から足の裏（止）までの部分を言います。〝あし〟ですが、ひざから上は含まないのが本義です。

促は、人と足（そく）との会意形声字で、〝近づく〟〝迫せまる〟という意味の字です。「催促」「督促」「促進」など〝うながす〟意味に使われます。



歩は、右足の止と、左足の少の変形少との会意字で、〝あるく〟ことを表わしています。

走は、〝はしる〟形を表わした土（大）と止との会意字です。土だけでは〝つち〟と同じ字形なので、区別するために、足の部首を加えたものです。

癶は、癶で、左右の両足をそろえて立つ形です。これから前進することを意味しています。前へ足を踏み出せば「発」となり、上へ足を踏み出せば「登」となります。

発の音は八（はつ）で、八には、〝開く〟意味があります。開発。発展。旧字は發で〝弓を発射する〟のが本義です。

登の音は豆（とう）ですが、「登山」「登城」の場合はトと発音します。

舛は𠬝で、両足を左右にやや開いてそろえた形です。舞を舞う時の基本の足の型です。部首としては「舞脚（まいあし）」と呼ばれていますが、正に意味もその通りです。

舞は、無（ぶ）と舛との形声字です。

無は、無（ぶ）と灬（燃える火）との形声字。物が焼けて〝なくなる〟という意味の字です。

夂は、舛が左右なのに対して、上下に足が並んだ形です。また、歩と反対に、下向きの形ですので、〝下る〟意味を表わしています。

降は、崖の意味の阝と夂との会意字ですので、〝崖を下る〟のが本義です。今は、広く〝下る〟の意味に用いられ、〝雨の下る〟こと、つまり〝ふる〟意味にも使われます。音は夂（こう）。降雨。降雪。

各は、足を下向きにして〝下る〟意味を表わす夂と口（こう）との形声字です。発音、本義共に夂（こう）と同じですが、今は、カクと発音され、〝おのおの〟という意味に使われています。

落は、〝草の葉が下降する〟という意味で、艹と各との会意字です。音は各（かく）が変化して洛（らく）になりました。落葉。落選。

絡は、〝下に落ちた糸がからまる〟という意味の字です。音は落（らく）です。手から落ちてもつながってはいますので、〝続く〟〝つなぐ〟意味にもなります。連絡。

路は、下降の意味の各と足との会意形声字で、〝下り坂のみち〟のことです。「坂路」が本義に適った用法です。音は各（らく）が口（ろ）に変わりました。

踏は、鞜（くつ）の意味の沓と足との会意形声字で、〝靴をトントンとふみ鳴らす〟ことです。音は沓（とう）。舞踏。雑踏（人込み）。

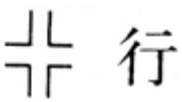
距は、巨大の意味の巨と足との会意形声字で、〝大足で歩けばたちまちにへだたる〟という意味で、〝へだたる〟ことを表わした字です。音は巨（きょ）。距離。

踊・躍・躁・踰・践は、第一部にあります。

趣は、〝物を取ろうと、急ぎ走る〟という意味の字で、取と走との会意形声字です。〝おもむく〟こと。転じて、〝味わい〟〝様子〟という意味の〝おもむき〟。趣味。

赴は、〝卜の結果を知らせようと、急ぎ走る〟という意味の字で、卜と走との会意形声字です。趣と同じく〝おもむく〟が本義。赴任。

越は、武器の意味の戉と走との会意形声字で、音は戉です。武器を執って敵に向かう時には、障碍を乗りこえて進みます。それで、〝こえる〟という意味を表わしました。越境。超越。



行は、十字路の象形です。人の歩行するところですから、〝いく〟という意味を表わしました。指事字です。

術は、行と朮との形声字です。彳が術の本義です。道は、目的地に行くのによらなければならぬものです。だから、何事でも、行なうのに最も良い方法を道または術と言うのです。奇術。剣術（道）。柔術（道）。

街は、行と圭との形声字です。彳が街の本義です。〝大通り〟のことです。街道。街路樹。街燈。市街。

衝は、〝重要な街道〟という意味で、重と行との会意形声字です。音は重。転じて〝重要な場所〟という意味に使います。要衝。また衝（道路）は重要な場所を〝つらぬいて〟通っていますので、〝突きぬける〟〝突きあたる〟という使い方も生まれました。衝突。

彳は、行の右半分を省略した形で、形の上で人扁に似ているため、「行人扁（ぎょうにんべん）」と呼ばれますが、意味用法は、行と同じです。

征は、〝行って不正を正す〟という意味の会意形声字です。音は正（せい）。征伐。遠征。

後は、彳と幺と夂（こう）の会意形声字です。反対向きの足の形である夂が、〝うしろ〟へ行くことを表わしています。

徒は、 の変形したもので、土と辶との会意形声字です。〝土の上を歩いて行く〟のが本義です。転じて、馬や駕に乗らない〝身分の低い士〟を言います。徒歩（とほ）。徒行。徒卒。

従は、從の略。從は の変形で、从と辶との会意字です。从は、人が人に〝付きしたがう〟ことを表わした会意字で、従の本字です。従は新しく作られたものです。

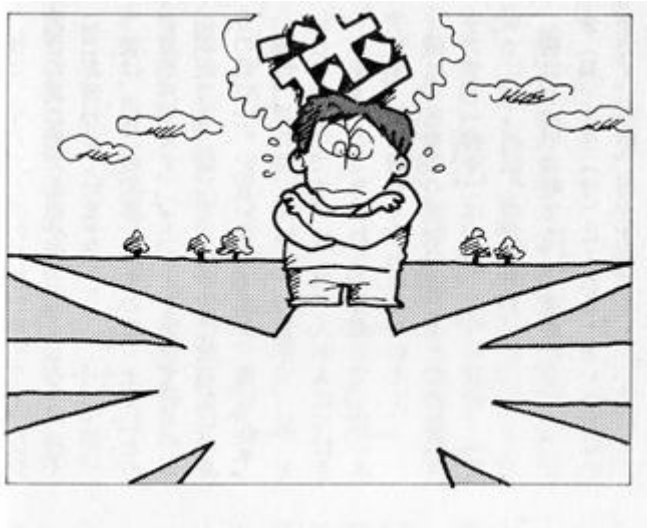
循は、巡（めぐ）や順（したがう）の意味の盾（じゅん）と彳との会意形声字です。「循守（じゅんしゅ）」は、〝従順〟の意味、「循環（じゅんかん）」は、〝巡回〟の意味です。

得は、 の略です。〝道路（彳）で、お金（貝）を手（寸）に入れる〟という意味の字です。拾得。得をする。

待は、役所の意味の寺と彳との会意字で〝役所に行きまたされる〟ことを表わした字です。音は寺のなまった が変化したタイ。

辺は、邊の略字。“国の果て”“他の果て”という意味の字です。それは、“刀を持って行かなければ危険な「辺鄙」な土地”という意味で、刀と辶とで表わしています。辺境。

迷は、八方に分かれる道路の象形である と辶との会意字。どの道を行った



らよいか、〝まよう〟という意味の字です。音は米（めい）。迷路。迷惑。迷信。

速は、木を一本一本運ぶよりも、束にして運んだ方が〝はやい〟という意味の字で、束と辶との会意形声字。敏速。速達。

連は、車があとからあとからと続いて行くという意味の会意字。今の東京の道路の様子にぴったりの字です。連続。連想。

逸は、兎（うさぎ）と辶との会意字。兎は逃げ隠れのすばやい動物なので、〝すばやい〟〝逃げる〟〝隠れる〟などの意味に使われます。逸足。逸話。

運は、軍用車の意味の軍と辶との会意形声字で音は軍（ぐん）の変化したウン。武器糧食を〝はこぶ〟のが本義です。運送。

「軍」は、軍用車を取り巻く形の字で、〝軍隊〟を表わしたものです。

道は、首（あたま）と辶との会意字で、〝大切な道〟〝本道〟という意味の字です。

逆は、人の逆さになった形の𠂆と辶との会意字で、〝反対の方向に行く〟のが本義です。逆行。逆流。逆算。転じて、〝そむく〟こと。反逆。逆賊。

辻は、わが国で作った漢字です。平坦の意味の一と辶とで、〝すべる〟意味を表わした会意字です。

辻は、〝十字路〟のことで、〝つじ〟と読みます。

込は、〝入りこむ〟という意味の字です。「辻・辻・込」など、わが国で作られた漢字には音がありません。

延は、**廷**と丿との会意形声字です。**廷**は足の意味の止と廴とで〝道を行く〟意味。丿は曳（引きずる）の丿です。延は、〝道のりが引きのばされる〟という意味です。それは〝遠くまで行く〟意味にもなりますので、「遠」と同音同義になります、音は丿が変化してエン。延長。延期。

曳は、申と丿との会意形声字です。申は伸の本字で、〝物を両手で引きのばす〟意味の臼と丨との会意字です（ ）。曳は、その引き伸ばしている手をわきから〝引っぱる〟ことです。曳航（船を引っぱる）。

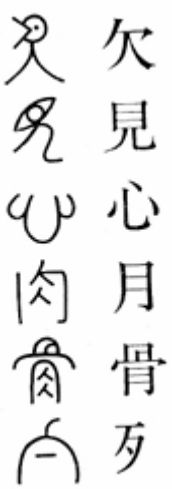
廻は、まわる意味の◎に廴を加えて、〝まわり道をする〟意味を表わした字。今では回が廻の意味も兼ねています。巡廻（回）。

建は、筆の本字の聿と廴との会意形声字で、〝筆を動かし進める〟〝文章を書く〟のが本義の字です。「建策」「建議」は、文書をもって意見を進言することです。転じて、〝計画を立てる〟意味から、〝家を立てる〟ことにまで使われます。建国。建築。音は、廴が変化してケン。

廷は、壬と廴との会意形声字です。壬は亻と土との会意字で、人が直立するという意味の字で、〝役人〟を表わした字です。廷は、〝役人〟の働きまわる役所という意味の字です。

庭は、役人の集合する〝役所のホール〟が本義の字で、广（建物）と廷との会意字です。転じて、〝広場〟の意味になりましたが、「日本庭園」の庭とは、内容が大変に異なっています。

■人体に関係のある部首



欠は、口を大きく開いた人の形を表わしたものです。だから、〝あくび〟という名があります。部首としては、〝口を開く〟〝あくびする〟という意味に使われます。

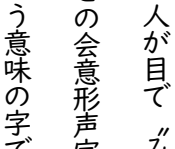
次は、二（ジ）と欠との会意形声字で、音は二（じ）です。二番めで結構、とだらけた気持であくびしている状態を表わした字です。〝つぎ〟という意味になります。次官。次男。

欧は、区（おう）（嘔）と欠との形声字。〝おうおうと言って、食べた物を口から吐き出す〟のが本義。「欧州」「欧米」は仮借による用法です。「嘔」と同音同義。

吹は、〝口を開いて、口から息をふき出す〟という意味の会意字。音は炊（すい）。吹奏。

飲は、〝口を開いて、食べ物をのみこむ〟という意味の会意字。音は引（いん）。飲酒。

歌は、〝口を開いて、よい声（可）を出す〟という意味の会意形声字。歌唱。



見は、目と人との会意字で、人が目で〝みる〟という意味の字です。見学。

視は、祭祀の意味のネ（し）と見との会意形声字で、音は示（し）。儀式に手落ちのないように、〝注意深くみる〟という意味の字です。視察。注視。看視。

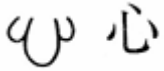
覚は、学の意味の⺍（かく）と見との会意形声字で音は⺍（かく）。見てよく学べば〝わかる〟し、また〝おぼえる〟こともできます。「自覚」は〝わかる〟〝さとる〟の意味です。

親は、辛（しん）と木と見との会意形声字で、**親**が本字。木は人の住む所なら、どこでも見ることのできるものです。〝見なれたもの〟という意味の字で、〝したしい〟が本義です。人

間関係で、最も見慣れており、最も親しいのは、〝おや〟です。〝おや〟は転注。親愛。親族。

覧は、監の意味の 監 と見との会意形声字です。〝高い所から見おろす〟〝身分の高い人がごらんになる〟という意味の字です。天賀。御覧。遊覧。

規は、コンパスの象形の夫（夫）と見（けん）との形声字で、〝円をえがく器具〟のことです。見（けん）の音は〝き〟と〝えん〟とに分けることができます。見＝規＋円。



心は、心臓の象形で、〝心臓〟が本義。転じて〝精神作用をつかさどるこころ〟という意味に使われます。心配。心理。

念は、今の心という意味の会意字です。現在、ああしたい、こうしたいと考えている心ということです。念願。専念。雑念。

志は、が古体です。は之（行く）の古体で、〝活動状態にはいった心〟を志と言うのです。〝こころざし〟。闘志。大志。

忠は、〝ま心〟という意味の字で、中、（チュウ）と心、の会意形声字です。忠実。忠誠。

思は、で、⊗と心との会意形声字です。⊗は脳の本字です。脳と心臓とが、人間の思考活動をつかさどるということで、組み立てられたものです。思想。意志。

忍は、心を刃物で突き刺されるような思いにも〝たえしのぶ〟という意味の字で、刃（ニン）（呉音。漢音はジン）と心との会意形声字。

忘は、〝心をうしなう〟という意味の字で〝わすれる〟ことを表わしています。亡（ぼう）（失う）と心との会意形声字。忘恩。忘年。

忙は、〝忘れるほどいそがしい〟という意味の字です。忘と同じく、亡（ぼう）（失）と心との

会意形声字です。多忙。忙殺。

性は、〝生まれつきの心〟という意味の字で、「天性」「本性」「性格」などと使われる字です。生と心との会意形声字。

恥は、耳から入って心に痛く感ずるという意味で、〝はずかしい〟ことを表わしました。音は耳。恥辱。無恥厚顔。

悟は、吾と心との会意形声字〝吾を正しく心に写し出す〟ことです。肉眼が自己の肉体を見ることができにくいように、自己の心はわかりにくいもの。その心をはっきりと明らかにするのが〝さとり〟です。悟得。覚悟。

患は、 （くしで貫く象形）と心との会意形声字で、〝心を突き刺されるような思い〟という意味の字です。〝うれい〟。転じて〝病気にかかる〟ことに使われます。内憂外患。患者。串は、食べ物にくしをとおすこと、貫はお金（貝）の穴にひもをとおすこと。言葉としてはどちらも同じカンです。

惜は、〝昔を思う心〟という意味の、昔と心との会意形声字です。過ぎし昔のことはなつかしく、美しいもの。〝なつかしむ〟〝いとおしむ〟ことです。愛惜。

想は〝よく見る〟意味の相と心との会意形声字です。実際の様子を眼前に見るように、心にありありと〝思いえがく〟ことです。想像。回想。思想。感想。

愁は、〝秋の心〟という意味の、秋と心との会意形声字です。「枯れ枝に鳥のとまりけり秋の暮」何とはなしに、物のあわれを感ずるのが〝秋の心〟です。〝うれい〟哀愁。旅愁。

意は、声音の意味の音と心との会意形声字で、音は、音がつまってイ。心に思っていることが、「よしやろう」という声になって出る状態になった心を意と言います。意志。決意。意見。精神活動の本体が「心」であり、刺戟に対して心が活動し始める状態が「志」

であり、判断がついて行動に移ろうとする状態まで高められたのが「意」です。

慎は、〝心に悪や油断が生じないようにつつしむ〟という意味の、真と心との会意形声字です。言葉をつつしむのが謹、心をつつしむのが慎です。謹慎。慎重。

慈は、草の滋(しげ)る意味の茲(じ)と心との会意形声字で、草に水をやり、育て〝いつくしむ〟心を言います。「慈愛の心が草木にまで及ぶ」というのが慈の本義です。慈悲。慈善。

慣は、物事をやり抜きとおす意味の貫(かん)と心との会意形声字で、〝一貫した行為によって生ずるなれ〟を表わした字です。慣習。慣例。慣性。慣用。

憶は、おもう意味の意にさらに心を加えて、〝長く思う〟意味を表わした会意形声字です。記憶(きおく)。追憶(ついおく)。音のオクは、okuではなくてok、つまり、今の表記で言えば、オッであって、熟語の組み合わせ方によってはongになり、onに近いのです。音は漢音がイン、呉音がオンですが、イ→イン→イク、オ→オン→オクで、これらは発音の現実ではほとんど同じに聞こえるのです。「意(い)」と「憶(おく)」とではまるで、緑がないように見えますが、現実で通じ合う音なのです。

憧は、いつも心が外に向かっていて、他を〝あこがれ〟ている児童の心を表わした、童(どう)と心との会意形声字です。憧憬。

惑は、〝もしかしたら〟という意味の或(わく)と心との会意形声字です。〝疑いを抱く〟という意味の字で〝まどう〟こと。惑乱。迷惑。誘惑。

惰は、堕(地に落ちる)の意味の有(だ)と心との会意形声字で、〝堕落した心〟という意味の字です。〝怠ける〟〝おこたる〟こと。怠惰。惰性(現状を打開して向上しようという気持に対して、現状維持の気持のこと)。

悩は、脳(のう)と心との会意形声字です。甾は頭脳の象形の⊗に髪の毛を加えた形です。心や頭を使うということで、〝なやむ〟意味を表わしています。苦悩。煩悩。

肉　月

肉は、獣肉のきれの象形ですが、〝食肉〟が本義ですが、部首として は、多く、肉体の名称に使われています。

胃は、田で、⊗は、胃に食べ物が入っている象形です。

肩は、肩の象形である戸と肉の会意字。肩を軸として腕が戸のよう に動く意味にも取れます。

腕は、宛曲の意味の宛と肉との会意形声字で、曲げたり伸ばしたりできる〝うで〟を表わしました。音は宛の変化したワン。

肝は、幹の意味の干と肉との会意形声字で、〝根幹にあたるような大事な臓器〟という意味の字です。「肝腎」は、肝臓と腎臓のことで、どちらも重要な臓器なので、〝重要〟という意味に使われます。

胸は、匈と肉との会意形声字。匈は、包む意味の勹（第二章の包参照）と凶の形声字で〝心臓や肺を包むところ〟のむねを表わしたものです。

脈は、川の分派する形を表わした 爪（派の本字）と肉の会意 形声字で、〝血液が分派して流れる血管〟のことです。動脈。静脈。爪の音は、漢音がハ、呉音がマ。これがつまって発音される場合、昔はこれをハク、マクと表記したもので、haku、maku と読んだものではありません。ミャクはマクのなまりです。

胴は、筒の意味の同と肉との会意形声字で、

〝肉体の筒状をしたところ〟という意味の字です。胴体。

胎は、〝始まる〟の意味の台と肉との会意形声字で、〝母体の中に新しい生命が始まる〟ことを表わした字です。「妊娠」と同義です。転じて「子宮」の意味に使われます。母胎。胎内。ﾆは ﾋ に最も変化しやすい音です。ﾋはタイとも発音されます。始と胎とはもとは同音なのです。詩と待との関係と同じです。

肺は、音の意味の市（市とは異字、沛然の旁と同字）と肉との会意形声字です。音（第一章の音を参照）の〝二つに分ける〟という意味によって〝左右二つに分かれている臓器〟を表わしたものです。

骨は、ほねの象形 と肉との会意形声字で、〝筋肉の付いたほね〟が本義の字。音は冂の変化したコツ。「骨格」、「骨子」は〝ほね〟ぐみの意味で〝輪郭〟〝要点〟という意味に使われます。

髄は、付随の意味の遒と骨との会意形声字で〝骨に付随している、骨の中に充満している脂肪状の物質〟のこと。〝骨の内部〟。脊髄。転じて、〝物事の中心となる大切な所〟という意味に使われます、心（神）髄。精髄。

歹は、 がくずれた です。肉体が死んで骨がばらばらになった状態を表わした字です。「一夕扁」と言います。〝死〟に関する意味を特った部首です。

死は、人の倒れて死んだ形の匕と歹との会意字で〝人が死んで骨となる〟意味の字です。

歿は、水中に隠れる意味の没と歹との会意形声字で〝死ぬ〟ことを表わしています。死歿。

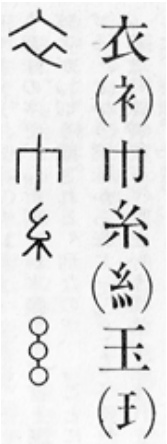
殊は、血を意味する朱（あけ＝赤）と歹との会意形声字で、〝朱に染まって死ぬ〟という意味の字で、〝斬刑〟が本義です。首と胴体とが〝切り離される〟刑なので、〝ことにする〟という意味から転じて〝ことなる〟〝ことに（特別に）〟という用法が生まれました。特殊。殊勲。

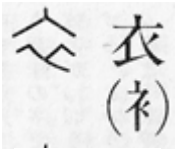
殉は、順の意味の旬と歹との会意形声字で〝人の死に順って死ぬ〟ことです。殉国。殉死。

殖は、木をふやす意味の〝植〟にならって〝人をふやす〟意味の字として作られたもの。歹と植との会意形声字。殖民。生殖。転じて、動物や財貨をふやすのにも用います。繁殖。貨殖。殖産。

列は、骨から肉を〝切り離す〟意味の会意字です。〝わける〟が本義で、転じて〝ならべる〟という意味に使われます。行列。整列。

■衣食住に関する部首





衣は、上衣の象形で、〝着物〟を表わした字です。音は漢音がイ、呉音がエ。部首としては衤（衣扁）が多く、亠と 衣 と上下に分けて使われるものもあります。

表は~~表~~衣で、毛と衣との会意字です。毛皮の着物で、毛のある方が〝おもて〟です。〝おもて〟が本義で、〝おもてに出す〟つまり〝あらわす〟という意味にも使います。表面。表記。表現。

裏は、内側の意味の里（城郭の内）と衣との会意形声字で、〝着物のうら〟が本義の字です。転じて、広く〝うら〟の意味に使われます。裏面。暗々裏。

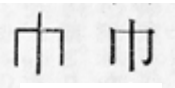
衷は、〝衣の中〟という意味の会意形声字で、音は中です。〝ふところ〟。転じて〝心〟の意味にも使われます。また、単に〝中〟の意味にも使われます。衷心。衷情。折衷。

裂は、切り分ける意味の列と衣との会意形声字で、衣類を仕立てるに当たって〝布を切りさく〟こと。転じて、広く〝さける〟意味に使われます。分裂。破裂。

装は、壮大の意味の壮と衣との会意形声字で、〝りっぱな着物〟という意味の字。〝よそおい〟。盛装。服装。装備。

被は、体の外側を包む意味の皮と衣との会意形声字で、〝体を包む衣類〟の総称。被服。外被。転じて、〝覆う〟〝こうむる〟被害。被告。

製は、刀で断ち切る意味の制と衣との会意形声字で、〝衣服を裁断する〟意味の字。転じて、広く〝物を作る〟意味に使います。製本。製鉄。製紙。作製。



巾は、布で物を覆う形の冂と糸すじ一との会意字で、〝ぬのぎれ〟を表わした部首です。音は僅です。布巾。頭巾。

布は、父の省略した形の乂と巾との会意形声字で、〝父用の巾〟という意味の字です。昔は、〝上質の麻ぬの〟を布と言ったのですが、今は広く〝ぬの〟の意味に使います。転じて、〝敷く〟意味に使います。綿布。布設。

帛は、〝白い布〟という意味の、白と巾との会意形声字です。白い厚手の絹で、昔は礼物の贈答によく使われました。布帛。

希は、爻（こう）と巾との会意形声字です。爻は糸の交差した象形で、〝刺繍を施した、飾りのある巾（ぬの）〟という意味の字です。こういう美しい布は僅かしか作れませんので、〝少ない〟という意味に梗われます。「希少」「希有（けう）」。また、だれもがほしがるので〝のぞむ〟という意味にも使われます。希望。

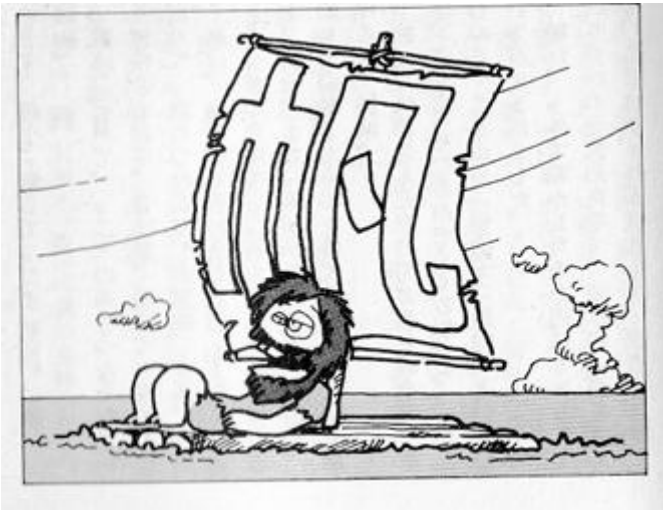
帳は、長（ちょう）と巾との会意形声字で、〝長い布〟が本義の字です。商店で、お金を勘定（かんじょう）する所に、外から見えないように長い布を垂らしました。これを帳場と言います。帳場で使う書きつけが「帳簿」です。帳簿の数字を〝帳づら〟と言います。漢字で表わすと「帳面」です。帳面は帳場で使うものですが、今ではノートの意味に使われています。

席は、庶（せき）と巾との形声字です。昔は、床の上に布を敷き、そこに坐りました。これが席です。座席。出席。

帶は、世と腰に結ぶ紐を表わす冂と巾との会意字です。昔の人は、七つ道具を腰のまわりにぶら下げました。これが世です。帶は、七つ道具や手拭を〝身につける〟という意味の字です。〝身におびる〟ことから転じて〝おび〟の意味になりました。携帯。帯剣。帯革。

帝は、天帝を祭る時に、捧げ物を載せる机の象形で、これによって〝天帝〟そのものを表わしたものです。後、天子の称号になりました。

帥は、小高い丘の象形である𠂤（たい）と巾との会意形声字。軍隊は丘の周囲に集合す



るので、自(たい)は「軍隊」の意味に転用されます。巾は 軍を指揮するための小旗。帥は、〝軍隊の指揮者〟のことです。統帥。元帥。音は、自(たい)が変化してスイ。

師は、軍隊の意味の自と、止まる意味の帀(し)との会意形声字で、〝軍隊が駐留する〟のが本義。転じて「軍団」「軍の指揮官」「教師」の意味になりました。王師（王の軍隊）。

帆は、風の意味の凡(はん)と巾との会意形声字で、〝風を受けて進むための舟のほ〟を表わしています。

糸は、繭から取った糸をより合わせた象形字です。音はシです。製糸工場。

細は、糸と田(さい)（思の田で⊗、音はsi）との形声字です。〝いと〟という意味が、〝ほそい〟という意味を表わしているのです。糸siも細siも元来は同じ意味であり、同じ発音なのです。細小。転じて〝こまかい〟。細字。細胞。

系は、𢆶で、〝二本の糸をつなぐ〟という意味の会意字。音は繋(けい)。転じて〝家のつながり〟〝血のつながり〟の意味。家系。

糾は、糸をより合わせた象形𠃊の丩(きゅう)と糸との会意形声字で、〝糸をより合わせる〟こと。糾合。また〝糸がからみつく〟。紛糾。転じて紛糾したものを解くために〝ただし調べる〟。糾明。

約は、物を包んだ形の勺(しゃく)と糸との会意形声字、〝包んだものを糸でくくる〟こと。〝ひ

きしめる〟ことから「倹約」「節約」という使い方が生まれました。

納は、〝外で乾かした糸を内にしまう〟という意味の会意形声字で、音は内（漢音はダイ、呉音はナイ）が変化して、漢音はトウ、呉音はノウ。納入。出納（すいとう）。

純は屯（じゅん）と糸の形声字で、他の糸を交じえない「純粋の生糸」のこと。転じて、〝まじりけのない〟意味に用います。純毛。純真。

紋は、模様の意味の文（もん）と糸との会意形声字で、〝織物の模様〟が本義。わが国では、家系を表わす「紋章」の意味に使います。

紛は、糸が分かれて〝入り乱れる〟という意味の、分（ふん）と糸との会意形声字。緒（いとぐち）が〝まぎれ〟てわからないことです。紛糾。紛失。

素は、まだ彩色しない〝生糸〟のこと。転じて、〝もとのまま〟〝しろい〟〝飾りけない〟などの意味に使われます。素質。平素。元素。素朴。

累は、𤰈が正字。畾（らい）は、雷の本字で、雷鳴の〝重なり続く〟意味の字。累は、〝糸を重ねる〟こと。転じて、広く〝物を重ねる〟意味に使います。累計。累代。「累卵」は卵を重ねることで、大変危険なことの譬えに使う言葉です。音は畾が変化してルイ。

塁は、壘が本字。〝土を高く積み重ねる〟ことで、〝とりで〟〝城壁〟のことです。今は、野球で「一塁」「二塁」と使います。昔の言葉で言えば、「一の丸」「二の丸」「本丸」に当ります。

継は、繼が本字。〝切れ切れ（𦃃）になった糸を一本の糸にする〟という意味の字で、〝つなぐ〟ことを表わしました。継続。

断は、𦃃と斤（おの）で、〝糸をばらばらに「切断する」〟ということを表わした字です。転じて〝思い切りよく〟処置すること。決断。判断。英断。

続は、續が本字。賣は属の意味の部首。〝切れた糸をつなぐ〟こと。連続。続出。

読は、讀が本字。〝言葉をつなぐ〟という意味で、〝本をよむ〟ことを表わした字です。言葉を切れ切れに読んだのでは〝読〟とは言えません。

網は 冈 と糸と亡(もう)の会意形声字です。冈 は罒で、鳥を捕える〝かすみあみ〟の象形です。〝糸を材料にして作ったあみ〟という意味の字です。亡(もう)は音を表わしたものです。

綱は、岡(こう)(大きな鳥あみ)の糸という意味で、〝太いつな〟を表わした字です。「大綱」。「綱紀」は〝人をしめくくる〟意味で、〝物事のきまり〟〝規則〟のことです。

岡は、冈 と山の会意字で、〝山の上に張った大きな鳥あみ〟が本義の字で、転じて、あみを仕かける〝おか〟の意味になりました。

繕は、〝糸で善くするという意味の字で、善と糸の会意形声字です。〝破れをつくろう〟こと。修繕。

結は、吉(きつ)と糸との会意形声字で、〝切れた糸をつなぐ〟ことです。繕と同じように、〝糸で吉(よ)くする〟という意味の字です。音は吉(きつ)が変化してケツ。連結。

縫は、合うという意味の逢(ほう)と糸との会意形声字で〝糸で布をぬい合わせる〟ことを表わしました。裁縫。

絹は、繭(けん)の意味の肙(けん)と糸との会意形声字で、〝繭から取ったきぬ糸〟という字です。

綿は、〝帛を糸でつなぎ合わせる〟という意味の字で、〝連なり続く〟が本義。「連綿」また繭を広げて引き伸ばし、これを何枚も重ね合わせて作った〝まわた〟をも言います。「真綿」。転じて、〝木棉(もめん)わた〟を言うようになりました。

緊は、堅(固)の意味の臤(きん)と糸との会意形声字で〝糸でかたくしめる〟という意味を表わしています。緊密。緊張。

線は、流れのつきない泉(せん)と糸との会意形声字で〝長く続いた糸〟という意味を表わしています。線路。電線。光線。

縮は、ひと所に集まる意味の宿と糸との会意形声字です。昼は散って広がっていた人が夜になるとひと所に集まります。その意味を取って、〝ちぢむ〟意味を表わしたのが縮です。糸がちぢむのが本義。縮図。圧縮。

紙は、氏（し）と糸との会意形声字。氏は𠂤で食事に使うナイフの象形です。氏は紙の〝うすい〟意味を表わしています。糸は、材料を表わしています。

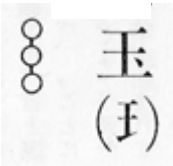
絵は、色を表わす糸（紅（あかむらさき）紫（あおみどり）紺緑）と会（かい）との会意形声字です。〝いろいろな色を会わせる〟という意味の字です。漢音はカイ、呉音はエです。エを訓だと思いやすいのですが、この字には訓はありません。

紅・紫・紺・緑など、色の名に糸が用いられるのは、色彩が糸や布によって発達したためです。

つまり、「紅」は、色そのものの名というよりも、〝赤く染められた糸〟に対する名称と考えるべきでしょう。これらはみな形声字になります。

終は、一年の終りを表わす冬（とう）と糸との会意形声字で、〝糸のおわり〟を表わした字です。〝糸どめ〟〝玉結び〟が本義ですが、今は、糸に関係なく、〝物事のおわり〟という意味に使われています。音は冬（とう）の変化したシュウです。

練は、練（れん）が本字です。柬は束と八との会意字で、〝束の中から良い物を選び分ける〟という意味の字です。練は、〝束ねた沢山の糸の中から、選び出した品質の良い糸〟という意味の字です。糸を煮て〝ねる〟と糸がやわらかく光沢も出るので、〝ねり糸〟を言います。また、〝糸をねる〟ことから転じて、広く〝きたえる〟意味に使われます。訓練。



玉は、三つの玉をひもで連ねたものの象形です。点が右下に付いているのは、この字が王と同じ字形なので、区別するために、あとから加え

たものです。扁の場合は、玉の意味がよくわかるので、点を付けませんが、王扁ではありません。音はギョク、またはキュウ。

球は、玉のキュウという音を表わす求を加えた形声字です。地球から始まって、野球・気球・電球・眼球など多く使われる字です。

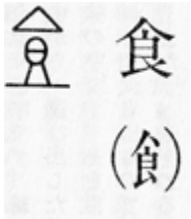
珠は、朱と玉との会意形声字で、〝赤い玉〟が本義です。今は、色に関係なく用いられています。真珠。金銀珠玉。

環は、まるく取り囲む意味の圜と玉との会意形声字です。まるい輪の形をした、中空の玉です。輪になっている所から、〝とりかこむ〟「環境」、〝まわる〟「循環」などとも使われます。

現は、見と玉との会意形声字で、暗い所でも玉が輝いて見えるという意味で、〝はっきり見える〟ことを表わした字。〝あらわれる〟こと。出現。転じて、〝今〟という意味に使われます。現在。現代。

理は、田んぼのあぜ道の意味の里と玉との会意形声字です。〝玉の表面に見えるすじ模様〟を表わした字です。転じてこのすじ模様をうまく生かして美しい玉をこしらえる意味になりました。〝玉をととのえる〟こと。さらに転じて、「料理」「理髪」などとも使います。また、〝すじ道〟の意味で、道理。理論。

班は、〝二つに切り分けられた玉〟という意味の、玉と刂（刀）との会意字。音は半分にする意味の判。今では、単に〝分ける〟意味に使われます。「班田収授」。また小分けしたものの称。新聞班。映画班。



食は、食器に食べ物を盛った形に、ふたをあわせて象った字です。△は、この字の音を表わす部首でもあります。

飲は、口を開いた形を表わした欠と食との会意字で〝食べ物をのみこむ〟意味を表わした字です。

飯は、毎日定時に反復して食べる物という意味で〝主食であるめし〟を表わしたもの。反と食との会意形声字です。

飼は、〝食事を司どる〟という意味の字で、〝食べ物の用意をする〟ことです。転じて動物にえさを与えること、〝動物をかう〟意味に使われます。飼育。飼料。

饑は、〝少ない〟または〝危い〟意味の幾と食との会意形声字で、〝食べ物が少ない〟〝うえる〟という意味の字です。饑饉。

飢は、幾の意味の几と食との会意形声字で、饑と同音同義の字です。飢饉。

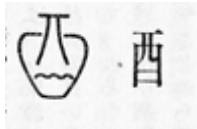
饉は、僅かの意味の堹と食との会意形声字で、飢や饑と同義の字です。

館は、家の意味の官と食との会意形声字で、〝食事のできる家〟のこと。料亭。旅館。

転じて〝大きな建物〟の意味に使われています。

養は、美の意味の羊と食との会意形声字で、〝りっぱな食事〟という意味の字。栄養。転じて、〝体をやしなう〟こと。養育。扶養。

余は、餘が本字。与える意味の余と食との会意形声字。人に与えるほど食べ物があるということは、〝あまる〟ほどあることを意味しています。



酉は、酒を入れる〝かめ〟の象形で、酒に関する字の部首に用いられます。旁の場合は「酒旁」と呼ばれていますが、扁の場合は「酉扁」と呼んでいます。酉の字が十二支の〝とり〟に当たるので、この名がありますが、意味の上では、〝とり〟に全く関係ありません。

酒は、〝酒がめに入れた液体〟という意味の字で、〝さけ〟を表わしています。

酔は、醉が本字。終わる意味の卒と酒との会意形声字で、〝酒を飲み終わる〟という意味になります。〝酒によう〟ことを表わしています。音は卒（すい）。「麻酔」「心酔」という使い方もあります。

醜は、〝酒を飲んで酔うとだれでもみにくくなるが、みにくい鬼が酒を飲んだらどんなにみにくくなるだろう〟という意味で、〝みにくい〟ことを表わした字です。音は酒（しゅう）。

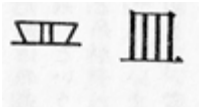
酷は、苦（にが）い意味の苦と同音の告と酉との会意形声字で、〝きつい酒〟を表わしています。転じて、広く〝ひどい〟〝きびしい〟という意味に使われます。酷暑。残酷。酷も苦も現代中国音は同じkuです。

酵は、孝（こう）と酒の形声字で、酒を醸造する時〝わき立つ〟ことを言います。発酵。発酵作用を起こす菌が「酵母菌」です。

酌は、水をくむ意味の勺（しゃく）と酒との会意形声字で、〝酒をくむ〟こと。晩酌。

配は、妃（はい）（つれあい）の意味の己と酒との会意形声字。〝さし向かいで酒を飲む〟という意味の字。転じて、〝酒を分ける〟〝くばる〟意味に使われるようになりました。配分。配達。また、妃の意味で「配偶」という言葉もあります。

酬は、めぐる意味の周（しゅう）の仮借の州と酒との会意形声字で、〝さかずきをまわす〟こと。転じて、〝返杯〟の意味から〝返礼〟の意味が生まれました。献酬。応酬。



皿は、食物をのせる平たい〝さら〟の象形字です。脚として用いられることの多い部首です。音はベイ。

益は、水という字を横にした、八と皿との会意字で、皿にもった水が盛りあがって見えるという意味の字です。〝あふれる〟が本義ですが、〝ふえる〟〝もうけ〟の意味に転用され、本義のためには「溢」が作られました。

盛は、りっぱな意味の成（せい）と皿との会意形声字で、〝皿にりっぱな食べ物をもる〟ことを表わした字です。〝りっぱ〟という意味と、〝もる〟という意味と〝さかん〟という意味とあります。盛装。山盛り。盛大。

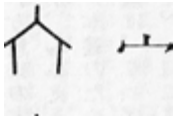
盗は、盗が本字です。盛られた御馳走を見て口からよだれを出すのが〝次〟です。盗は、思わず〝ぬすみ食い〟をすることです。転じて、人の目をかすめて〝ぬすむ〟ことに使われます。

盟は、昔、諸侯が条約を結ぶ時、牛の耳から血を取り、これをすすって約束に背かないことを神に誓い合いました。これが盟で、「同盟」という言葉ができました。この時、盟主が牛の耳を取るので、一般に指導的立場に立つことを〝牛耳を取る〟というようになりました。血を皿に盛るので、血という字は皿の上に血のしるしを加えて作りました。盟は、明（めい）と皿との会意形声字です。

盤は、搬の意味の般（はん）と皿との会意形声字で〝運搬に便利なように両端に柄のついた、大きな皿〟のことです。「水盤」「碁盤」「円盤」などとも使われるようになりました。

搬は、舟で運ぶ意味の般と手との会意形声字で、〝手で物を運ぶ〟意味を表わしました。

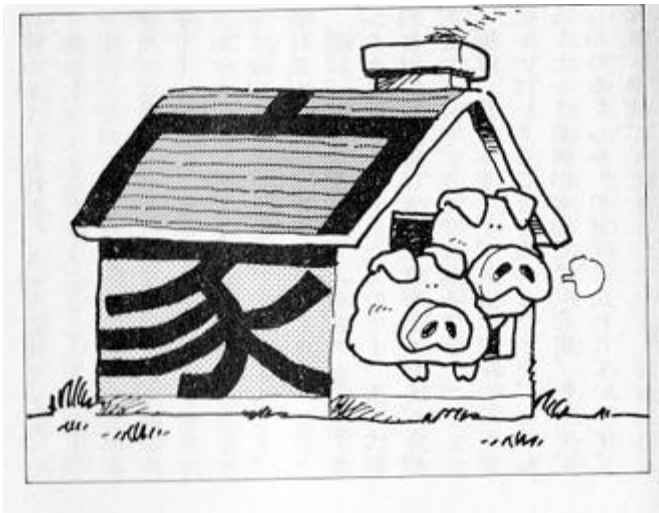
盆は、分（ふん）と皿との会意形声字で、音は、分（ふん）が変化してボン。〝銘々に分けて食べ物を盛る皿〟という意味の字です。銘々皿。わが国では、食器を載せる台のことを言います。



宀は、屋根のある家の象形字です。家の意味のほかに、〝上から覆う〟意味の部首として使われているものもあります。

家は、豕（ぶたの象形、豚の本字）と宀との会意字。中国では、どの家でも豚を飼っていたので、この字ができました。

宿はベッドの象形の百と人と宀との会意字で、〝家の中のベッドに人が休む〟意味を表



わしています。

室は、〝人の至り止まる家〟という意味で、至と宀との会意形声字です。音は至がつまってシツ。〝へや〟のことで、「居室」「浴室」「暗室」などと使います。

至は、𠦪土で、鳥が飛んで、地上に舞い下りる形を表わしたもので、地上に〝いたる〟という意味を表わしています。今は、〝いたって〟という副詞に使われることが多く、動詞の〝いたる〟のためには〝到〟ができました。至急。至近。到着。到達。

宮は、躬（身体）の意味の呂と宀との会意形声字で、身体を休める家〟という意味の字です。〝りっぱな住居〟の意味に使われていまず。宮殿。宮城。神宮。訓の〝みや〟は〝御屋〟または〝御家〟の意味です。宮は、漢音がキュウ、呉音はグウ。

完は、元首の意味の元と宀との会意形声字で、〝元首の住む家〟という意味の字です。〝欠けた所のないりっぱな家〟ですから、完全無欠という使い方が生まれました。

宗は、神霊の意味の示と宀との会意字で〝先祖代々の霊を祭ってある家〟、つまり、〝本家〟を表わした字です。本家は頼りになる、尊敬すべき家なので、〝たっとぶ〟意味にも使われます。宗家。宗祀。

察は、祭と宀との会意形声字で、音は祭がつまってサツとなりました。先祖の祭りは、昔は極めて重要なものとされ、万事に手落ちのないように慎重に行なわれました。それで、察に〝念入りに見る〟〝しらべる〟という意味を託したものです。観察。視察。

安は、女と宀の会意字で、〝家に女がいれば安心していられる〟という意味で、心の〝やすらか〟なことを表わした字です。安息。平安。

定は、正の変形した疋（せい）と宀との会意形声字で、〝家の中を正しく治める〟という意味の字です。論語に「席正しからざれば坐せず」とありますが、正しきにおることが、身心ともに安定（〝さだまる〟）するゆえんです。音は正がなまってテイ。

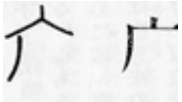
宝は、宝玉の意味の玉と宀との会意字で〝たから物〟を表わしたものです。玉は代表的な財宝で、家に大切に保存しておくべき物だというので、玉を宀で包みました。

実は、實が本字です。財宝の意味の貝が家にいっぱいあることを表わした字で、〝みちる〟という意味が本義です。充実。転じて、〝みのる〟〝み〟の意味に使われています。果実。事実。

宅は、托（たく）の意味の乇（たく）と宀との会意形声字で、わが身を〝托する家〟という意味の字です。自宅。住宅。

寡は、宀と頁と分の会意字です。■は頒で、〝分かつ〟こと。寡は〝家を分かつ〟のが本義の字です。分家。分家すると財産が分割されて〝少なくなる〟ので〝少ない〟意味が生まれました。「衆寡敵せず」。寡婦は、夫に分かれてひとり家に住む婦人という意味です。

宣は、へやの外の廊下を表わした亘（せん）と宀との会意形声字です。今の言葉で言えばホールに当たります。昔、朝廷では、詔（みことのり）をこの大広間である宣で伝えました。それでこれを「宣旨」と言います。また、詔勅は国民に〝広く伝える〟ものであるから、「宣伝」という使い方が生まれました。



广は、一方が開放されていて、自由に出入りができる大きな家の象形です。個人の住宅ではない建物を表わすのに多く用いられる部首です。

店は、お客に開放されている家の形の广と占との形声字です。音は占がなまって点となりました。占は、品物の陳列欄の象形と見ることもできます。

庫は、車を入れておく〝車庫〟を表わした字です。今では、広く〝物を入れおく建物〟の意味に使います。書庫。金庫。倉庫。

広は、广が〝ひろい建物〟という意味を表わしています。ムと广形声字。旧字体は黄との形声字で廣。今は公・弘・宏のムで表わしたものです。

府は、与える意味の付と广との会意形声字です。租税として与えられた穀物を納めておく〝倉庫〟が本義の字ですが、今は広く〝役所〟という意味に使います。

付は、人と寸（手）の会意字で手をつける〝与える〟という意味を表わした字です。

度は、手を何回も広げて、〝長さを計る〟意味を表わした、广（広げる）と又（手）と廿との会意字です。廿は、十を横に二つ並べた形で、二十のことです。数の多いことを表わしています。昔は、両手を広げた時の長さを〝ひろ〟と言い〝尋〟と言って、これが長さをはかる単位とされたことは第一部の尋で説明しました。

〝長さを計る〟ことから転じて、広く〝はかる〟意味、また、〝はかりの目もり〟をも表わすようになりました。温度。角度。

庶は、家の中で火（灬）を燃やして、上になべをかけて食べ物をこしらえている象形です。平凡な庶民の生活を表わしたものであり、またそれは庶民の希望を表わしたものでもあります。〝民衆〟の意味、〝希望〟の意味に使われます。衆庶。庶幾（望む）。

座は、すわる意味の坐と广との会意形声字で、〝家の中の人のすわる所〟という意味の字です。座席。転じて〝人の集まる所〟という意味に使われます。名画座。講座。

坐は、土の上に人がふたりいる形の字で〝すわる〟という意味を表わした会意字です。普通、坐は〝すわる〟、座は〝すわる所〟の意味に使い分けられていますが、字の本義は

それほどの違いはありません。

床は、牀（しょう）の意味の木と广との会意形声字で〝座ったり、寝たりする牀（ゆか）〟を表わしたものです。

牀は、〝木材を使って作った家具〟を表わした字で爿（しょう）と木の会意形声字です。爿は木を半分にした形で丬をまん中から分けると、爿と 片とになります。片は、独立して「片方」などと使われますが、爿は部首としてしか使われません。爿は、木を切って角材にしたり、板にしたりすることを表わしていますので、〝ゆか〟〝寝台〟〝椅子〟など、いろいろの意味に使われています。

底は、〝傾きかかった家〟の意味の 底 と一との会意形声字で、家を安定させるために、土台につっぱりを入れることを表わしています。〝家の土台〟〝そこ〟という意味の字です。

氏は、傾きかかった柱につっかえ棒をした形を表わした字で、〝ささえる（支）〟という意味を表わした指事字です。支には、〝分かれる〟という意味がありますので、一つの家から分かれ出たもの（支）を表わすための名のりを〝氏〟というようになりました。

庚は、古体が丬で、両手できねを持つ形です。〝穀物をつく〟のが本義の字です。今の字体では人をきねに見たてればよいでしょう。

庸は、庚と用（よう）との会意形声字で、〝きねを用いる〟という意味の字です。転じて、広く〝用いる〟という意味に使います。雇庸。登庸。また、穀物をきねでつくことは、日常生活の常の仕事ですから、〝常〟の意味にも使われます。凡庸。中庸。

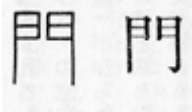
康は、庚（こう）と米との会意形声字です。お米がつけるのは、幸福な状態ですから、〝やすらか〟の意味を表わしました。健康。

廃は、乱の意味の発（はつ）と广との会意形声字で、〝破れ果てて、とても住めなくなった家〟

を表わした字です。廃墟。廃家。音は発(はつ)が変化してハイ。

癈は、〝治療しても、元通りにならない病気〟〝手当てのしようもない病状〟を表わした字です。癈疾。癈人。

廊は、闌（手すり）の意味の郎(ろう)と广との会意形声字で、〝手すりのある建物〟という意味の字です。中国で、堂（表座敷）の東西にあるへやが、郎をめぐらしていて廊と言いました。また、へやを結ぶ「廊下」は郎があるので、この名前があります。



門は、両方に開く扉のついた門の象形字です。〝もん〟が本義ですが、〝家〟の意味にも用いられます。家門。名門。

関は、門をとじてかんぬきをした形です。旧字体では關でした。人が出入りできなくなりますので、〝せき止める〟意味を表わします。昔、通行人をせき止める所を「関所(せきしょ)」と言いました。関東、関西は、箱根の関所を境にして〝関(せき)の東、西〟という意味の言葉です。

閂は、〝かんぬき〟をかけた門の象形で〝かんぬき〟のことです。

開は、かんぬきに手をかけた形の**开**（）と門との会意字で、〝門をひらく〟という意味を表わしています。転じて、広く〝ひらく〟意味に使います。開発。開放。

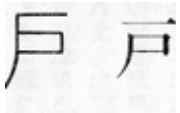
閉は、門にかんぬきをかけ、そのかんぬきが動かないように縦木を入れ、さらにその木をも勤かないようにとめた形です。〝門をとじる〟ことです。才は、才能の才(さい)ではありません。音は蔽(へい)。

間は、閒が本字。門の間から月光がさし込むという意味で、〝すきま〟〝あいだ〟の意味を表わした会意字です。〝すきま〟の意味から転じて〝ひま〟の意味が生まれました。音は閑(かん)です。間居（閑居）。

閑は、門の内側にある横木を表わした会意字です。「闌閑」とも言います。守衛が出入りする人をここで止め、調べました。怪しい者をここで干(ふせ)ぐので、「闌干」とも言います。このため門内はみだりに人が入らないので〝しずか〟という意味があります。閑静。

閥は、門と伐(ばつ)の形声字で、左側の門柱の名称です。門と同じように〝家がら〟の意味に用いられます。門閥。転じて、同郷、同窓などの間で作る団結の意味に使います。派閥。財閥。

閲は、門と兌(えつ)の形声字で、右側の門柱の名称です。昔は、ここに車馬を並べたので、〝車馬を数えたり、調べたりする〟ことを閲というようになりました。閲兵。検閲。



戸は、家の出入口につけてある、片開きの〝と〟の象形字です。音はコ。これも、家の意味に使われる字です。

房は、傍（かたわら）の意味の方(ほう)と戸との会意形声字で、表座敷の傍に付随している部屋のことです。普通、東西にあって、「東房」「西房」と言います。〝わきべや〟が本義の字です。戸は、〝へや〟の意味を表わしています。「暖房」「冷房」などと使われます。へやは物を貯蔵しておく所であるというので、「子房」「乳房」などの使い方もあります。

肩は、開閉する意味を表わす戸と肉との会意字で、腕のつけ根の〝かた〟を表わしています。

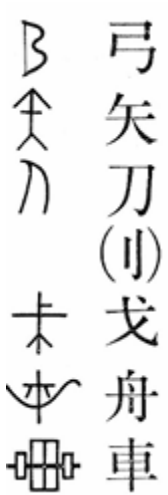
扇は、開閉する意味を表わす戸と羽との会意字で、〝ひらひらさせて風をおこす羽〟、つまり、〝おうぎ〟を表わしたものです。昔は、鳥の羽で作りました。扇子。扇風機。

戻は、戻が本字です。〝犬が戸をくぐり抜けて出入する〟という意味の字で、〝乱暴〟または〝無理〟をすることを表わしています。暴戻（ぼうれい）。曲戻。〝道にもとる〟ことです。今では〝家にもどる〟という使い方をしています。この意味は、わが国だけのものです。

所は、斧（おの）の象形であり、本字である斤と戸（こ）との形声字で、〝斧で木を切る〟のが本義の字です。戸は、木を切る時のコンコンという音を表わしたものです。この字は古くから、〝処〟の仮借字として〝ところ〟の意味に使われています。名所。住所。

雇は、鳥の意味の隹と戸との会意形声字で、〝家に飼われている鳥〟が本義の字です。転じて、〝自分の家において養う〟という意味か、〝人をやとう〟という意味になりました。雇傭（こよう）（用）。解雇（かいこ）。

■道具に関する部首



弓は、弓の形を象った象形字です。音はキュウです。

引は、引き伸ばす意味の丨と弓との会意字で、〝弓をひく〟のが本義です。また、弓と矢を並べたものと見てもよいと思います。転じて、広く〝ひく〟意味に用います。音はイン。引力。延引。引退。

弔は、古い形は弓と亻とでできており弓と人の会意字です。昔は死体を葬ると、鳥や獣が荒らしに来ました。そこで死者を弔う人は弓を持ってこれを追い払いました。人は弓を

持って〝とむらう〟のです。

弦は、糸の意味の玄と弓との会意形声字で、〝弓に張る糸〟、つまり〝つる〟のことです。楽器に張るのは「絃」ですが、今では、弦で兼用させています。弦月（半月）。管弦楽。

張は、脹れる意味の長と弓との会意形声字で〝弓をいっぱいに引く〟のが本義の字です。転じて、弓や琴に弦をかけることを〝張る〟とも言います。拡張。誇張。

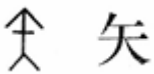
弾は、弦のはじく音を表わす単と弓の形声字で、〝弦をはじく〟ことを表わしています。また、単は丸と同じ韻なので、弓と丸との会意字と見ることもできます。この場合は、石弓に用いる〝たま〟が本義です。今では、前者の意味の「弾力」「弾琴」、後者の意味の「弾丸」「砲弾」、どちらもよく使われています。昔の砲は石弓で、砲弾は石でした。

弧は、半月のように曲がった形の弓と瓜との会意形声字で、音は瓜の変化したコです。数学で、円周の一部を弧と言いますが、そのような形を表わす字です。「弧形」は、言葉としては「瓜形（うり形）」の意味で、文字として「弓形」の意味を加えたのです。

弘は、肱の象形のムと弓との会意形声字で、〝弓を力いっぱい引っ張る〟ことを表わした字です。弓の〝ひろくはる〟のが本義で、〝ひろまる〟〝ひろめる〟の意味に使われています。漢音はコウ、呉音はグです。弘道。弘布。弘通。

強は、弘と虫との形声字で、弘と呼ぶ虫の名が本義の字です。音は弘がなまって、キョウ。古くから同音の「彊」の仮借字として〝つよい〟という意味に用いられています。

彊は、〝つよい弓〟が本義の字で、広く〝つよい〟という意味に用いられ、転じて、〝努力〟の意味にも使われていましたが、同音の「強」が代用されるようになって、あまり使われなくなりました。自彊やまず。



矢は、弓に使う矢の象形字です。矢は、昔は最も速いものだったので、部首としては〝はやい〟という意味によく使われます。光陰矢のごとし。

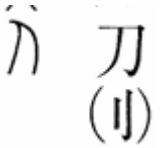
知は、矢のように速く、言葉が口から出てくる、という意味で、矢と口の会意形声字です。音は矢がなまったチです。速く言えるということは、何でもよく知っているからである、というので、〝しる〟といふ意味を表わしました。

短は、小さい意味の豆と矢との会意形声字で、〝小さい矢〟、つまり〝みじかい〟という意味を表わしたものです。音は豆が変化してタンです。短気。短所。

矯は、先の曲がっている意味の喬と矢の会意形声字で、〝曲がった矢をためる〟という意味の字です。矯正。

医は、箱の意味の匚と矢との会意字で、〝矢を入れる器具（ゆぎ）〟が本義の字です。今では醫の意味に使われています。

醫は、医と殳と酉の会意字です。酉は薬用酒。薬を用いて病気を退治する、という意味の字です。医も殳も武器で、病気を退治するという意味を表わしています。



刀は、〝かたな〟の形を象った象形字です。片刃の彎曲したものです。音はトウ。

刃は、刀の切るところ、つまり〝は〟を示した指事字です。音は、漢音ジン、呉音ニン。白刃。刃傷。

分は、刀で物を二つに切り離した形を表わした、刀と八との会意字です。〝わける〟こと。転じて、〝わかれる〟こと。分配。分裂。また、「身分」「気分」という使い方もあります。

切は、切り落とす時の音を表わす七と刀との形声字で、〝刀で物をきる〟ことを表わし

た字です。音は七が変化してセツ、呉音はサイ。切断。一切。

刈は、草をかる意味の乂と刀との会意形声字です。苅は俗字です。

刊は、突き刺す意味の干と刀との会意形声字です。昔、版木に文字をほりきざんで印刷したので、〝書物を出版する〟ことを刊という字で表わしました。刊行。月刊。

刑は、开と刀との形声字で、〝斬刑〟の意味の字です。开という発音の言葉には、「形」「型」があり、〝きちんと整ったタイプ〟を意味しているようです。従って、刑は、〝法に照らして処断する〟という意味がその発音から汲み取れます。刑法。刑罰。

初は、衣と刀との会意字です。衣類は、布を刀で裁断することから始まるので、〝はじめ〟の意味を衣と刀とで表わしました。最初。初期。

別は、冂の変形した另と刀との会意字で、〝骨から肉を切り離す〟という意味の字で、〝わける〟が本義の字です（P163 列と同義）。今では、〝人とわかれる〟意味に使われます。区別。別離。また、「別室」「別状」などの使い方もあります。

刺は、〝とげ（冂）のある木〟の意味の朿と刀との会意形声字です。〝とげでさすように刀でさす〟という意味で、〝さす〟ことを表わしました。セキという音もあります。

剛は、綱のもつ〝大きい〟〝太い〟などの意味の岡と刀との会意形声字で、〝大きくてがっしりとした刀〟という意味の字です。転じて〝つよい〟〝かたい〟などの意味に用

いられます。剛勇。剛胆。

剤は、調える意味の斉と刀との会意形声字です。医者のことを「刀圭家」と言いますが、薬を調合するさじを〝刀圭〟というのです。つまり、〝さじで薬を調合する〟ことが剤の本義で、今は、〝調合された薬〟の意味に用いられています。調剤。薬剤。強心剤。

割は、傷つけそこなう意味の害と刀との会意形声字です。〝刀で傷つける〟という意味の字で、〝さく〟〝わかつ〟こと。割譲。分割。音は害（がい）がつまってカツ。

剰は、〝切っては上へ上へと乗せる〟意味の字で、物の豊富にあることを表わした、乗（じょう）と刀との会意形声字です。〝あまる〟という意味に使われます。余剰。過剰。

前は、古体は𦥑です。〝岸につないである舟のともづなを切る〟という意味の字で、〝舟の前進すること〟を表わした字です。舟月（ふなづき）の月と、止める意味の𠂆と刂との会意字です。

到は、いたる意味の至（とう）と刀との会意形声字で、〝刀が相手の体に至る〟という意味で、〝どどく〟ことを表わした字です。到着。到達。用意周到。

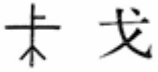
制は、朱と同じく木の象形である朱と刂との会意字で、〝木を切って物を作る〟という意味の字。音はセイ。〝たちきる〟〝つくる〟が本義です。制裁。制作。「制限」「制御」は「掣」の意味の仮借です。

掣は、〝制作しているのを手でおさえる〟ことを表わした字で、制と手との会意形声字です。掣肘。牽掣。

刷は、人の意味の尸と布と刀の会意字で、〝人が布と刀とを持って仕事をする〟ことを表わした字です。汚れた所をふき、落ちない所は削り、〝きれいにする〟ことが本義です。刷新。転じて〝こする〟意味。刷子（さっし）（ぶらし）。刷毛（はけ）。「印刷」も〝こする〟意味です。

券は、古体が券で、二つに分けて、それぞれに所持する〝わりふ〟を表わした字です。相互の約束として取りかわすものの名称に使われます。証券。株券。乗車券。

刻は、草の根の象形である亥と刀との会意字で、薬草の根を〝きざむ〟ことを表わした字です。「彫刻」「時刻」の意味から転じて、「深刻」「苛刻（酷）」とも使われます。



戈は、いくさ道具の〝ほこ〟を象った象形字で、武器の総称として用いられ、また、〝戦争〟の意味にも使われます。「干戈」は、武器の総称であり、また戦争という意味でもあります。

武は、戈と止との会意字です。〝戦争を防止するもの〟という意味の字です。つまり、武とは、相手を倒すためのものではなくて、相手の侵略を未然に防ぐためのものだということです。中共の核兵器も、使うためのものではないという、武の本義をぜひ銘記してもらいたいもの です。

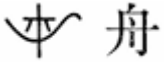
戦は単（せん）と戈との形声字で、〝武器をもってたたかう〟という意味の字です。戦争は恐ろしいものですから、〝恐れおののく〟という意味にも使われます。戦々兢々。

戯は、猛獣を意味する虞の略字の虚と戈との会意字で、〝武器をもって猛獣をあやつる〟という意味の字です。〝猛獣つかいの芝居〟が本義で、〝たわむれる〟意味に使われます。戯曲。演戯。遊戯。

戍は、人と戈との会意字で、〝武器を持つ人〟が本義です。転じて、〝まもる〟意味になります。戍卒。衛戍。昔、陸軍病院のことを衛戍病院と言いました。

成は、戈と同じ意味の戊と丁との会意形声字です。丁は、釘の象形で、テイの音は、釘を打つ音を表わしたものです。成は、〝武器を揮って侵略者を平らげる〟こと。成功。転じて〝なしとげる〟という意味。音は丁テイが変化してセイ。呉音はジョウ。成就（じょうじゅ）。

我は、古体は で、先が三つに分かれたほこの象形です。〝われ〟の用法は仮借。〝わが身を守るもの〟であるから、転じて〝われ〟を表わしたとする説もあります。

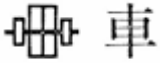


舟は、舟の形を象った象形字ですが、今の字形は、たてになっています。音はシュウ。

船は、沿の意味の㕣（えん）と舟（しゅう）との会意形声字です。〝流れに沿って下る舟〟という意味の字です。昔、函谷関以東では、流れがゆるやかで上り下りできたので、舟と呼び、函谷関以西では急流のため、下りにしか使えなかったので、船と呼んだと言います。音は舟 syu と㕣 en とでセン sen になりました。

艇は梃（丸木）の意味の廷（てい）と舟との会意形声字で、〝丸木舟〟という意味の字です。転じて、〝細長い形の小舟〟を言います。短艇（ボート）。潜水艇。

「艦」「舶」「航」「艙」は、それぞれ第一部の旁の項で説明されています。



車は、二輪車の形を象った象形字です。音はシャです。

輌は、二つの意味の両（りょう）と車との会意形声字です。車は車輪が二つあって一台だということで、〝車一台〟を表わした字です。また、車を数える時に「一輌・二輌」と言います。今では扁を省いて「両」で代用しています。

軒は、ふせぐ意味の干（かん）と車との会意形声字です。〝戦車〟が本義の字です。「戎軒（戦車）」。矢を防ぐように覆いが設けられていて、転じて〝覆い〟の意味になり、〝家ののき〟の意味に使われるようになりました。太夫以上の身分の者の乗る車を軒と言うのは、日光や雨風を防ぐ〝覆い〟のある車という意味です。

軟は、欠（かん）と車の形声字で、車の震動をやわらげるため、車輪に蒲をまきつけた車のこと

です。転じて、物の〝やわらかい〟ことを表わすのに使われます。軟骨。

軸は、車のじく（⊕）の象形である由と車との会意字です。〝車の心棒〟です。転じて「筆の軸」「マッチの軸」「掛軸」などとも使われます。音は柚（ジク）。

由は、○で、果物と木とを結ぶ部分を表わした字です。これによって木から栄養を受けて成熟するので、〝たよる〟〝よる〟という意味を表わしました。由来。理由。漢音はユウ、呉音はユ。

転は、轉が本字。回る意味の旋（せん）の仮借である専（せん）と車との形声字で〝車の回る〟ことを表わした字です。転じて、〝場所が移る〟意味に使われます。回転。移転。転任。

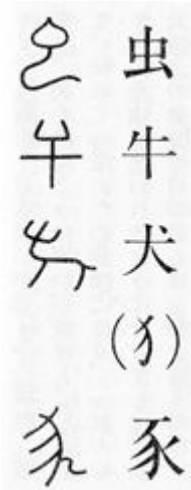
較は、組み合わせる意味の交（こう）と車との会意形声字です。車の乗る所に、つかまえるために設けられた横木のことです。左右にあることから〝比べる〟という意味に使われるようになりました。音は交（こう）、またはカク。較著（こうちょ）。比較（ひかく）。

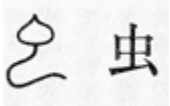
軍は、古体の𠦪が示す通り、戦車を中心に兵が行動するのが、軍の常だったので、車を囲む形で、軍隊を表わしました。

軌は車と九（く）との形声字で、〝車輪の通ったあと〟〝わだち〟のことです。このわだちの間隔がいつもきちんと正しいところから、「軌範」という使い方が生まれました。音は九（く）が変化してキとなります。「軌」は、同音同義の字です。

轄は、車と害（がい）との形声字で、車輪が軸からはずれて災害を起こさないように、車軸にはめ込む〝くさび〟が本義の字です。転じて、広く、〝災害を起こさぬよう取り締まる〟ことに使います。統轄。管轄。

■動物に関する部首





虫は、〝まむし（蛇）〟の象形字です。蟲は、三つの虫の会意字で、虫類の総称です。今の〝虫〟はこの蟲の代用字です。音は中（ちゅう）。

蚊は、文文（ぶんぶん）という羽音を表わす文と虫との形声字です。蚊帳（かや）（ぶんちょう）。

蛔は、〝腹の中を回り歩く虫〟という意味の会意形声字です。蛔虫（かいちゅう）。

螢は、あかりの意味の〝炯〟と虫との会意形声字で、〝あかりをともす虫〟ほたるのことです。螢光燈。螢雪の功。

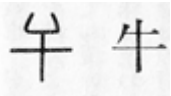
蟻は、正義の意味の義（ぎ）と虫との会意形声字で〝秩序整然たる団体生活を営む虫〟ありを表わした字です。「蟻集」は、ありのように密集すること。

蚕は、蠶が本字。潜む意味の替（せん）と虫との会意形声字で、〝繭の中に潜む虫〟かいこを表わしたものです。蚕はその略字です。天は潜（てんせん）のなまりです。また、人間の生活に役立つ絹を与えてくれる〝天の虫〟の意味にとることもできます。

蛮は、蠻が本字。糸がもつれるように言葉が乱れる意味の蠻（らん）と虫との会意形声字で、〝がやがやとやかましく鳴く虫〟という意味の字です。南方の民族を蛮と言ったのは、彼らがおしゃべりでわからない言葉をやかましく話したところから名付けたものです。中国では四方の異民族を「東夷西戎南蛮北狄」と言いました。わが国でもこれにならって、西欧人が南方からやって来ましたので、〝南蛮人〟と呼びました。また、〝未開人〟の意味に使います。野蛮。

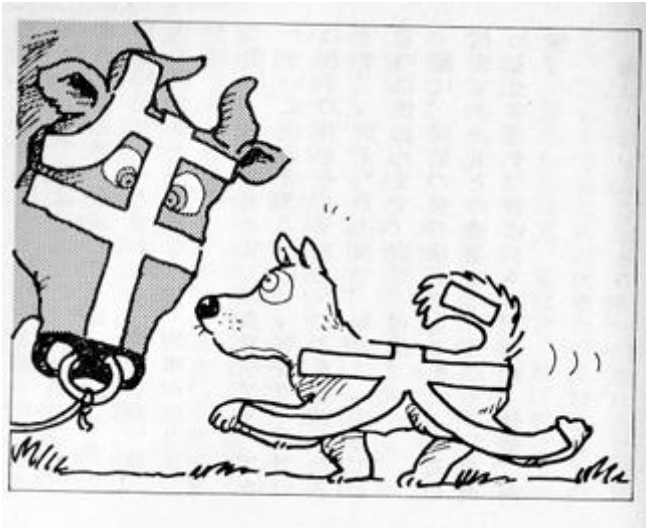
恋は、戀が本字。糸がもつれたように、思慕の情が思うような言葉になって出ず、心が千々に乱れる、という意味の字です。俗に〝いと（糸）し、いとしと言う心〟と、しゃれて言いましたが、今の字体ではこれが言えなくて味気なくなりました。「変」も同じ構造の字です。

融は、かまどの象形（鬲）の鬲と虫との形声字で、音は虫（ちゅう）が変化したユウ。〝物を煮てとかす〟ことを表わした字です。〝とける〟。固形では通らないものも、液状になればするすると通るので、〝とおる〟意味にも使われます。融合。融通。



牛は、二本のつのを含む〝うし〟の頭部を象った象形字です。音はギュウ。

物は、牛と勿（ふつ）の形声字です。牛は家畜の中で最も大きく、庶民に取っては最も頼りになる財産なので、〝もの（万物）〟の代表になりました。植物。人物。「貨物（かもつ）」は呉音。



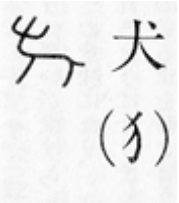
犇は、〝牛の群れ〟を表わした字です。わが国では、〝ひしめく〟という意味に使っています。

犠は、〝りっぱ〟という意味の義（ぎ）と牛との会意形声字で、神に〝いけにえ〟として捧げる牛を表わした字です。犠牲。

牲は、〝りっぱ〟という意味の精（せい）の仮借である生（せい）と牛との形声字です。犠と合わせて用いられる字です。

特は、役所という意味の寺と牛との会意字

で、〝役所に飼われている牛〟という意味の字で、〝いけにえの牛〟が本義です。特にりっぱな牛が選ばれるので、〝とくに〟という言い方が生まれました。犠牲という字ができてからは特は、本義には使われなくなりました。



犬は、いぬの全身を象った象形字です。音はケン。「犭」は、犬の変形で、「犬扁（いぬへん）」ですが、普通は「けもの扁」と呼ばれています。犬以外の動物をも表わしているからです。

狗は、せむしの象形の勹と犬と口との会意形声字で〝小さい犬〟を表わした字です。音は口（漢音はコウ、呉音はク）。「羊頭を掲げて狗肉を売る」は、現代的に言うと、〝レッテルは牛だが中味は鯨の肉〟ということです。

狐は、コンコンという声を表わす瓜（こ）と犭との形声字で、〝きつね〟のことです。「狐媚」は、狐が人をだますように、上の人に巧みに取り入ることを言います。「虎の威を借る狐」どうも狐は評判が良くありません。

狼は、良（ろう）と犭との形声字で、〝おおかみ〟のことです。おおかみは恐ろしい動物なので、昔の人たちは「犬神様」と言ったり「大神（おおかみ）」と言って敬遠しました。良と呼ぶのも、これと同じで、敬遠して〝良い犬〟つまり狼と呼んだものと思われます。「狼藉（ろうぜき）」は、狼の寝たあとが乱雑なので、物事の取り乱した様を言います。

獄は、二匹の犬と言との会意字です。犬がたがいに吠え合うように、〝訴訟で、たがいに相手の非をそしりあう〟ことを表わした字です。〝訴え〟が本義で、転じて〝牢屋（ろうや）〟の意味に使われます。監獄。地獄。

獣は、獣類の顔の象形である 𠙵 と、家畜の代表である犬との会意字で、〝けもの〟を表わした字です。音はジュウ。猛獣。怪獣。禽獣。

獲は、鳥を取る意味の蒦（かく）と犭との会意形声字で、〝猟犬を使って、えものを取る〟ことを表わした字です。捕獲。獲得。

献は、獻が本字。虎の飾りのある鬲（融の項参照）と犬との会意字で、〝犬を料理すること〟を表わした字。〝祖先のみたまやに物をそなえる〟ことが本義です。奉献。献納。また、「献金（けんきん）」「献立（こんだ）て」という使い方が生まれました。

然は、肉の意味の夕と犬と灬の会意字です。〝犬の肉を火でやく〟という意味の字です。「燃（もやす）」の本字ですが、後に、「偶然、漠然、泰然、悠然」という使い方が生まれたため、本来の意味を表わすのに、さらに火を加えて燃としました。音は、漢音がゼン、呉音がネンです。

狩は、守る意味の守と犭との会意形声字です。冬の農閑期、草木の枯れた季節に、原野に火を放って行なう〝かり〟を狩と言います。国土を守るための仕事なので狩と言うのです。春のかりは蒐、夏は苗、秋は猟。

猟は、獵が本字です。獵（りょう）と犭との形声字で、〝犬を使って鳥獣を追い捕える〟ことを表わした字です。狩猟。猟師。

猛は、孟（もう）と犭との形声字で、〝強い犬〟を表わした字です。転じて、〝強い〟〝たけだけしい〟という意味に使います。猛獣。

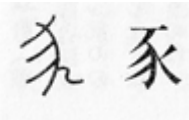
独は、本字が獨。蜀（しょく）と犭との形声字。犬は接触するとすぐけんかをするので、一匹ずつ離しておきます。それで〝ひとり〟の意味を表わしました。単独。独唱。

状は、本字が狀。爿（しょう）と犬との形声字。爿は像（しょう）の仮借で、〝犬のすがた〟が状の本義です。転じて、広く、〝姿〟〝形〟〝有様〟の意味になりました。

狂は、草が乱雑に茂る意味の王（おう）と犭の会意形声字で、〝狂犬〟が本義の字です。転じて、〝気ちがい〟の意味になりました。音は犬（ken）と王（o）でキョウ（kyo）。狂乱。狂

暴。

犯は氾濫の意味の巳と犭との形声字で、〝犬があばれ回って人に害を与えること〟を表わしています。転じて、人が目上に背いたり、法を犯す意味に使います。侵犯。犯逆。犯罪。



豕は、いのししやぶたの形を象った象形字です。音はシ。

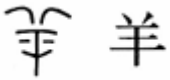
家は、家(いえ)の意味の宀と豕との会意字です。豚は早くから、家畜として、多くの家で飼育されていたことが、この字の成り立ちから知ることができます。

豚は、いのししの意味の豕と肉との会意字です。ぶたが、いのししの家畜として変化したものであることを表わした字です。

象は、 で、長い鼻のぞうの形を象った象形字です。音はゾウ。ゾウの意義は、「想像」の意味です。中国には象がいないので、話として伝え聞き、あるいは絵により〝想像〟し、心にその形をえがいていました。

像は、人と象との会意字です。中国人は象を実際に見ることはできません。心に想像するだけです。だから、〝心にえがく形〟を、人と象とで代表させた訳です。

豪は、高の意味の (こう)と豕との会意形声字です。長い毛を高くそばだてる〝山あらし〟を表わした字です。この針のような毛には猛獣も恐れるというので、〝強い〟意味を表わします。豪勇。強豪。豪傑。



羊は、二本のつの、長いひげなどの特長をよく象った象形字です。音はヨウ。家畜の中でも、羊は最も優美で、性質も温和なので、「美」「善」などを表わすのに用いられています。

美は、羊と大との会意字で、美しい動物だが、とりわけ、肥えて大きな羊は見事なので、〝大きい羊〟で〝うつくしい〟という意味を表わしました。美女。美辞。美談。

善は、古体は𦍒です。〝りっぱな問答〟という意味の字です。転じて、問答に限らず、広く〝りっぱなこと〟の意味に使われます。最善。善良。善行。

義は、〝我を美しくする〟という意味の、羊と我との会意字です。つまり、りっぱな人間として必要な資質に対して与えた〝徳目〟です。孟子は「仁義あるのみ」と言いました。この道を実行できる人間が、最高の人間だと言うのです。音はギですが、これは〝よろしい〟という意味の宜（ぎ）と同じ言葉です。

群は、〝羊の君〟で、〝羊のボス〟という意味の字です。羊はむれをなしていますが、そのボスが群です。転じて、〝むれ〟の意味になりました。群羊。群衆。群雄。

羚は、りっぱな意味の令と羊の会意形声字です。羊に似て、羊よりも大きく、姿や毛並みの美しい〝かもしか〟を現わした字です。

着は、羊の部首の字ではありません。著が変化した形です。著は、第一部の者の項で説明しました。

鳥（隹）

鳥は、長い尾のとりの形、隹は、短い尾のとりの形を象った象形字です。しかし、部首としては、鳥も隹も同じく、一般的な〝とり〟の意味に使われています。

鳩は、クークーと鳴く音を表わした九（く）と鳥との形声字で、〝クークーと鳴く鳥〟、つまりはとを表わしています。呉音はク、漢音はキュウ。鳩首（首を集める→相談すること）。

鳴は、鳥と口との会意字で、〝鳥のなく〟ことを表わした字です。音はメイ。転じて、

〝なる〟〝ならす〟意味にも使います。共鳴。雷鳴。鳴弦。

鵞は、ガーガーという鳴き声を表わした我と鳥との形声字で〝鵞鳥〟のことです。

鶏は、コケッコウという鳴き声を表わした奚と鳥との形声字で、〝にわとり〟のことです。「鶏口となるも、牛後となるなかれ」「鶏鳴狗盗」などの故事があります。

鶴は、カッカッという鳴き声を表わした雚と鳥との形声字で、〝つる〟のことです。「鶴首」は、首を長くして待ち望むことです。

雀は、〝小さい隹〟という意味の字で、〝すずめ〟のことです。「雀躍」は小踊りして喜ぶことです。燕雀いずくんぞ鴻鵠の志を知らんや（小人に大人の心がわかるものか）。門前雀羅（訪れる人がいないので雀取りの網が張れるほどだ）。

雄は、宏の意味の厷と隹の会意形声字です。体の大きくてりっぱな〝おんどり〟を表わした字です。転じて、「雄大」「雄壮」などの意味に用います。また、「英雄」。音は厷が変化してユウになりました。

雌は、同音の妻（si さい）の仮借である此と隹とで、〝妻鳥〟と呼んだものです。〝めんどり〟が本義で、広く生き物の〝めす〟の意味に用いられます。

雑は、雑が本字です。衆は衣の変化した形で、この字は古くは襍でした。これがずれて雑となったものです。〝いろいろな布を集めて作った衣類〟という意味の、集と衣との会意形声字です。音は集が変化したソウ。ザツは慣用音です。雑言。雑草。

集は、雥が本字です。木の上に鳥が〝あつまっている〟という意味の会意字です。音は聚です。

雅は、カアカアという鳴き声を表わした牙と隹との形声字で〝からす〟を表わした字です。からすは〝反哺〟と言って、餌を取ることができなくなった親鳥に餌を口移しに食べさせる孝鳥だと言われています。その親子の情愛が〝正しく〟〝ゆかしい〟というので、

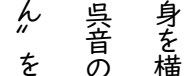
〝正しい〟〝ゆかしい〟という意味に用いられるようになり、からすは「鴉」と書き分けるようになりました。典雅。優雅。雅量。

離は、美しいという意味の麗と同音の离（り）と隹との形声字で、鶯の一種である麗（り）と呼ぶ鳥の名が本義です。人里離れた島に住むので〝はなれる〟意味に用いられるようになりました。

隻は、又（手）と隹との会意字で、〝鳥を一羽手に入れた〟という意味の字です。〝一羽の鳥〟が本義です。二羽の鳥は「雙（今は略して双）」と言います。隻手（片手）。隻眼。転じて、水鳥になぞらえて、舟を「一隻」「二隻」と数えるようになりました。

奪は、大と隹と寸（手）の会意字です。奄は〝大鳥〟の意味ではなくて、鳥が翼を大きく広げる意味の字です。手に入れた鳥が羽ばたいて逃げるのが奪の本義です。音は「脱（だつ）」で、本来は脱と同音同義の字です。今は〝うばう〟の意味に用います。奪回。強奪。

奮は大と隹と田の会意字で、〝鳥が田んぼから羽ばたいて飛び上がる〟意味の字です。飛び立つ時の勢いの盛んな有様から、〝ふるいたつ〟意味を表わしました。奮起。発奮。興奮。



馬は、馬の全身を横から象った象形字です。漢音はバ、呉音はマです。国語の〝うま〟は、呉音のマを〝（う）ま〟と発音したもので、純粋の日本語ではありません。〝ん〟をを〝（う）ん〟と発音するのと同じです。馬については、「馬耳東風（馬の耳に念仏）」「馬脚を現わす」「馬鹿」などの故事があります。

駄は「駄」が本字。〝人を乗せて運ぶ馬〟を表わした、人の意味の大と馬との会意字です。転じて、〝荷物を運ぶ馬〟「駄馬」の意味になり、さらに転じて〝荷物〟その物を言うようになりました。荷駄（にだ）。駄賃。また「駄馬」は、〝下等な馬〟の意味に転じ、「駄句」

「駄じゃれ」などの使い方が生まれました。

駒は、狗と同じく、〝小さい〟意味の句と馬との会意形声字です。〝若い小馬〟を言います。〝こま〟と言うのは、〝小馬（こま）〟または〝子馬〟という意味です。わが国では、広く〝馬〟の意味に使われています。また、「将棋の駒」とも使われます。

駢は、並ぶ意味の并（へい）と馬との会意形声字で、〝二頭立ての馬車〟のことです。漢文で、四字句と六字句とをうまく並べた名調子の文を「駢儷文（べんれい）」と言います。

駟は、〝四頭立ての馬車〟です。「駟馬にむちうつ」とは、高位高官にのぼり、得意な様を言います。「駟も舌に及ばず」は、言葉を慎重にせよ、という教訓です。

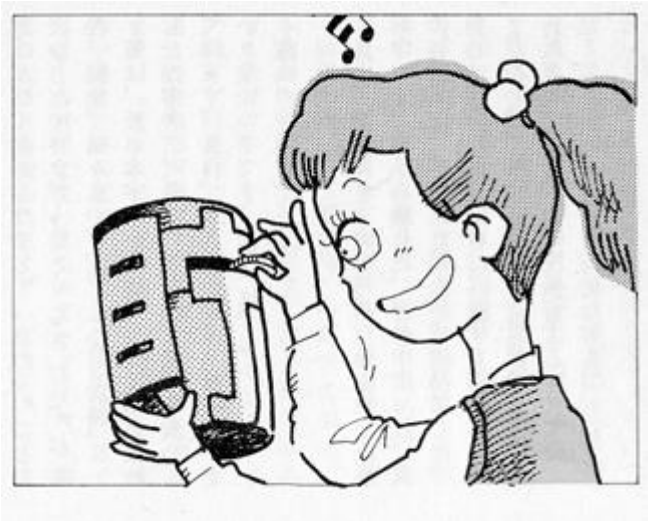
驚は、つつしむ意味の敬と馬との会意形声字で、〝馬が暴れないようにしっかりと手綱をおさえる〟という意味の字です。馬はからだの大きいのに似合わず、驚きやすいので、〝おどろく〟意味に使われます。〝おどろく〟の本字は「駭（ガイ）」です。驚は、漢音はケイ、呉音はキョウです。驚天動地。

騒は、蚤（そう）（のみ）と馬との会意形声字で蚤のために、馬が体を木にこすりつけたり、体をぴくぴく動かしたりして〝さわぐ〟ことを表わした字です。〝動く〟〝さわぐ〟が本義。騒動。騒々しい。「噪」と同音同義。

蚤は、蚤が本字。叉は、爪（つめ）を表わした指事字で、かゆい所をかく意味を表わしています。蚤は、〝人をかゆくさせる虫〟という意味の字です。「掻」は、〝かく〟という意味の字です。

貝

貝は、二枚貝を正面からみた形を象った象形字です。海から離れた、昔の中国では、貝の装飾品は、手に入れがたい貴重品でした。美しく磨いた貝は宝石に匹敵する価値がありましたので、部首としては〝財貨〟の意味に使われます。



また、物々交換をする時代では、軽くて小さい貝は、貨幣的な存在でした。音はパイ。

「責」「貨」「賞」「貸」「購」「賠」など、すでに第一章に出て来た字がかなりあります。

貯は、貝と宁（ちょ）との会意形声字です。壮丁、丁年の丁は成熟の意味の字で、家に物の充実することが宁です。〝家にお金を充実させること〟が貯です。今は広く、〝物をたくわえる〟という意味に使います。貯水。

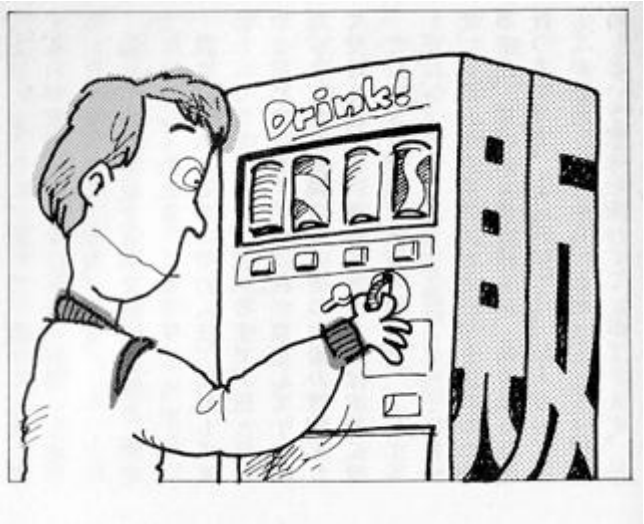
財は、貝と才（さい）との会意形声字です。才は木が根をわずかに張り始めた形を表わした字で

〝わずか〟〝始め〟という意味の字です。これから生長してどんな大木になるかわかりませんので、〝将来に発展する能力を秘めた素質〟という意味に使われます。財は、いろいろな能力を発揮させ成功させる働きを秘めたものであるから〝才〟というのです。財貨。資財。

貴は、虫（き）と貝との会意形声字です。虫は𡗜の変形したもので、人が両手を左右に広げた形です。貴は、両手を広げたほども財貨を持っている、という意味の字で、〝身分の高い人〟を表わした字です。貴族。貴重。貴賤。

資は、次（し）と貝の会意形声字です。〝命の次に大切なお金〟という意味の字です。財の所で述べたように、仕事の〝もとで〟にするものなので、「資本」「資金」などと使います。

買は罒と貝（ばい）との会意形声字です。罒は**円**で、網の本字です。網で鳥を一度にたくさん取るように物をごっそりと手に入れることを意味しています。〝お金と交換に物をごっそ



りと手に入れる〟、つまり〝かう〟ことです。

販は、〝物を買い入れて反対にそれを売る〟という意味の字で、貝と反（はん）との会意形声字です。〝買い入れた物を売る〟ことですから、あきないとして、〝物を売る〟ことです。販売。販路。

賛は、贊が本字です。兟（しん）は〝進める〟という意味の字で、訪問時の〝進物〟が本義の字です。受け取った者は、開いて見て〝ほめる〟のが礼なので、〝ほめる〟意味になりました。賛美。賛嘆。書画のすみに「賛詞」を

書いたものを「賛」と言います。「自画自賛」は〝身ぼめ〟〝手前みそ〟の意味によく使われる言葉です。音は兟（しん）が変化してサン。

讃は、〝賛（ほ）めて言う〟という意味の、賛（さん）と言との会意形声字です賛と全く同じに使いますので、当用漢字からはずされました。、　。賛

賀は、お祝いの言葉を述べた上に財貨を贈るという意味で、加（か）と貝との会意形声字。〝言葉に加えるに財貨〟で、相手に祝意を表するのが賀ですが、今は単に「賀詞」を述べるだけでも賀です。祝賀。年賀。

加は、力の不足を言葉で補う意味の字で力に口を〝くわえる〟ことです。

賃は、〝人としての努め（任）に対して支払われるお金〟という意味の字で、任（にん）と貝との会意形声字です。音は任（じん）が変化してチンになりました。労働者が、その労働の報酬として受ける金銭を「賃金」と言うのは本義に適っています。運賃。家賃。駄賃。

任は、壬と人との会意形声字です。壬は、一で、人のおなかに胎児のいる事を表わした指事字で、音は人（漢音はジン、呉音はニン）。妊の本字です。壬（妊娠）は、婦人の〝人としての務め〟ですから、人と壬とで〝つとめ〟という意味を表わすことができます。任務。責任。また、妊娠は、婦人だけに〝まかせられた〟ものですから、〝任せる〟という意味にも使われます。委任。任意。

則は、〝貝に刀で傷をつけてしるしとする〟という意味の会意字です。〝しるし〟が本義で、それは〝標準〟とするものであるから、「法則」「規則」という用法が生まれました。

賊は、賊が変形したもので、則と戈との会意形声字です。〝標準、法則を傷つけ破る〟という意味の字です。〝国を乱す者〟が本義で「乱臣賊子」という使い方が本義です。転じて人を殺したり、物を盗んだりする無法者をも言うようになりました。

貧は、分と貝との会意形声字で、〝財産を分割する〟という意味の字です。お金が乏しくなるので、〝まずしい〟ことになります。「貧乏」「貧困」。音は分が変化してヒン。また「貧血」「貧弱」というようにも使われます。

費は、払うという意味の弗と貝との会意形声字で、〝お金を支払う〟という意味の字です。〝ついやす〟こと。費用。消費。旅費。

貢は工と貝との会意形声字です。工は工芸品、貝は土地の産物を意味します。〝地方の工芸品や産物を朝廷に奉献すること〟を貢と言います。朝貢。貢物（みつぎもの）。「貢献」は、世のためになる仕事をすることを言います。

貞は、卜（うらない）と鼎の形声字で、〝国運をうらなう〟のが本義の字です。鼎と貝と、古体では形が似ているので、誤って貝になったものでしょう。昔は、大事を決する時は、亀の甲を焼いて、そのさけめによって判断しました。これを亀卜と言います。天下を安定させる大切な行事なので、貞が定（さだまる）または正（ただしい）の意味に使われ

るようになりました。

負は、人の意味の〆と貝との会意字で、〝人が財産を頼みに、気負っている〟ことを表わした字です。〝たのみにする〟〝気負う〟が本義の字で、転じて、〝背負う〟、さらに転じて〝背を見せる（まける）〟意味にも使われるようにたりました。自負。負担。勝負。

貫は、貝をひもで通した形の毌（かん）と貝との会意形声字で、〝つらぬき通す〟または〝金銭〟の意味に使われます。貫通。銭貫。また、金銭の単位名、重さの単位名にもなりました。

貿は、卯（ぼう）と貝との会意形声字です。卯は⊕で、物を均等に分けた形です。二つの物の価値がひとしいことを意味する部首です。貿は、お互いが持つ品物を、価値が等しいように交換しあうことを意味した字です。〝物々交換〟が本義です。今では外国と品物の売買することを「貿易」と言います。

賓は、字形が客と同じ意味の宀（ひん）（ヒンは臨の意味の言葉）と貝との会意形声字。少は夂と同じく、〝足〟の意味の部首（足の項参照）です。どちらも、〝家（宀）に訪れ来る（足）人〟を表わしています。〝贈り物を持って訪れる客〟が賓です。一般には、身分の高い場合は賓、身分の低いのを客、と使い分けているようです。賓客。主賓。

賢は、堅の意味の臤（けん）と貝との会意形声字です。貝は、財産ばかりでなく、地位の尊貴なことをも意味します。〝財産や地位を堅く守る人〟という意味の字です。転じて、広く才知徳行にすぐれた人を言うようになりました。賢明。聖賢。

賦は、音は付（ふ）です。役所から納付するように割り付けられた財物を〝納付〟することを表わした言葉です。軍役に徴発されることをも含めて賦という字になったのかと思われます。つまり、国民としての二つの義務（軍役と祖税）を表わす武と貝との会意字と見るこ

とができます。音は、納付の付によったものと考えられます。「月賦」は、月々に代金を取り立てる所から生まれた名称です。

頼は、賴が本字です。刺（ラッ）と貝との会意形声字です。刺は、束を刀で切りほどくことです。束は、木を保存することを意味し、刺は、それを消費することを意味します。頼は、貯えておいた金を消費することを意味しています。財貨の威力を〝たのみ〟にして、どんどんと使うことで、〝たよりにする〟〝たのむ〟という意味に使われます。依頼。信頼。

■植物に関する部首

木は、立ち木の象形です。紙のまだなかった時代は、木の札に字を書き、金属の道具のなかった時代は、木を使いました。だから記録に関係するものや、機械などを表わすのにこの〝木〟を使っています。

本は、木の根に当たる郎分にしるしを付けて、根を示した指事字です。木。これと反対に、木の〝すえ〟を表わしたのが「末（木）」という字です。本（ほん）の音は、根（こん）の変化したものです。

札は、木と乙との形声字で、〝木のふだ〟のことです。これに字を書いてひもでとじたものが冊です。冊は、その形を象った象形字です。冊がサツと読まれるのは、札に影響されたためでしょう。「お金の札」「検札（切符）」「表札」など、材料が紙でも、金属でも関係なく使われています。

机は、几が本字。古字は冂で、つくえの象形字です。後に、材料の木を加えました。音はキ。机上の論。

朽は、丂と木との会意形声字。丂は、上がつかえて伸び悩んでいる形です。〝伸びなくなった木〟という意味で、〝くちる〟意味を表わしています。音は変化してキュウ。宰我という人は昼寝をして、「朽木ほるべからず（腐った木では彫刻しようがない）」と孔子に叱られました。

枯は、古と木との会意形声字。木が古びて、〝かれる〟という意味の字です。枯木死灰枯淡の趣き。

朱は、木で、木の中心部を示した指事字です。幹の中心部の〝あかい〟部分を示したものです。〝あか〟。朱にまじわれば赤くなる。

株は、朱と木との会意形声字。木を切ったあとの〝切りかぶ〟のことで、朱の部分が見えるからです。「守株」は、待ちぼうけの歌で知られた故事です。

材は、才と木との会意形声字。才は、木がわずかに根を張り始めた象形指事字。これからりっぱになる〝もと〟を表わした字です（財の項参照）。りっぱな道具や建物のもとである木が〝材〟です。材料。資材。人材。

条は、條が本字。幼と同音の攸と木との会意字で、〝小枝〟を表わした字。転じて、〝すじ〟の意味に使われます。条文。条例。条項。

杯は、不（hi）と木との形声字。木で作った〝さかずき〟のこと。「盃」とも書きます。

玉杯。賜杯。カップの意味にも使われています。天皇杯。

枚は、攵（手の攵の項参照）と木との会意字。むちか棒きれ程度の木のことを言う字です。転じて、それらを数える時の助数詞になりました。一枚、二枚。

枢は、区と木の会意字。品物や家畜を区分けして入れておく所が区です。この区から出し入れする時に開閉するしかけが枢です。重要な所だというので、「枢要」「中枢」などと使われています。

架は、〝木を加える〟という意味の字です。〝木をかけ渡す〟こと。架橋。転じて〝たな（棚）〟のこと。書架。「架空」は、とてもできないことですから、〝想像〟の意味に使います。

某は、甘と木の会意字で、〝おいしい実のなる木〟という意味の字です。音はボウ。〝うめ〟が本義ですが、今は〝なにがし（ある人）〟という意味になりました。某月某日。「うめ」は楳となりましたが、同音の毎（ぼ）を用いて梅という字を作りました。

染は、木と水と九の会意字。昔は衣類をそめるのに、草や木の汁を煮て、色を煮出し、これに漬けました。何回もくり返さないと染まらないので、九と水とでこれを表わしたのです。

柔は、矛と木との会意字。〝つよい丈夫な木〟という意味が本義だと思います。柳の枝に吹き折れなしで、転じて〝しなやか〟〝やわらか〟の意味になったのでしょう。柔軟（じゅうなん）。柔和（にゅうわ）。

栄（本字は榮）は、火が明るく燃える意味の𤇾（虫の項の螢参照）と木との会意形声字で、音は𤇾（けい）がなまってエイ。〝花が燃えるように美しく咲く〟のが本義です。転じて〝さかえる〟意味になりました。栄枯盛衰。栄華。

校は、人が足を交叉させる象形の交（こう）と木との会意形声字で、〝人の手足を交叉さ

せたまま動けないようにはめ込む木製の処刑道具〟のことです。〝手かせ、足かせ〟が本義です。黌と同音なので、古くから「学校」の意味に使われています。「校正」は、罪人を〝調べる〟意味の校です。

核は、根の象形の亥（刀の刻の項参照）と木との会意形声字で、〝草木の根〟が本義の字。大切な所という意味で、専ら〝大切な所〟の意味に使われます。また、根からさかのぼって〝種〟〝木の実〟の意味にも使われます。

案は、按（しらべる）の意味の安と木との会意形声字。調査の書類を書くのに用いる〝つくえ〟のこと。転じて、〝考え〟という意味にも使います。立案。草案。案外。

械は、戒と木との会意形声字で〝罪人を戒めるための責め道具〟のことです。〝かせ〟などを言います。転じて〝しかけ〟ということで、機械。

機は、幾微の意味の幾と木との会意形声字。その働きが微妙である〝しかけ〟を表わした字です。「機会」は効果に微妙な働きを持つ時期という意味です。機械類が昔はすべて木製品であったことを字がよく物語っています。

植は、直と木との会意形声字。木を直立させるという意味の字で、苗木を移し〝うえる〟ことを表わした字です。音は直の変化したショク。植樹。移植。植民。

棋は、其と木の形声字。将棋の〝こま〟のことです。囲碁は〝石〟なので「碁」です。

棒は、〝奉げ持つ木〟という意味の会意形声字で、音は奉です。〝手に持てる程度の大きさの丸太〟のことです。

棺は、〝死者の館〟という意味の官と木との会意形声字です。

極は、亟と木との会意形声字です。亟は一口で、狭い所に追いつめられ、今にもとらえられそうになって悲鳴をあげていることを表わした字です。〝進退きわまった状態〟を表わしていて、〝きわまる〟という意味の字です。極は、〝木の窮まる所〟という意味の

字で、家屋の〝むな木〟が本義ですが、今は単に亟の意味に用います。北極。極端。終極。

概は、既（xi）と木との形声字で、米をますではかる時に使う棒（ますかき）のことです。高い所と低い所とがこの棒でならされるので、〝ならす〟意味になりました。概略。その結果は〝あらまし〟〝おおむね〟という意味にもなります。

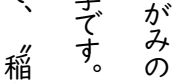
楼は、樓が本字です。婁は、屢や數（数）の婁で、〝重なる〟意味の部首です。屋根の重なった、つまり平屋ではない〝高層のたかどの〟を言います。楼閣。楼台。

様は、羕と木との形声字で、〝どちの木〟が本義の字です。〝ありさま「様子」〟という使い方は象の仮借です。橡は様の別字で、やはり〝どちの木〟のことです。

横は、黄と木との形声字で、〝門のよこ木〟のことです。転じて、広く〝よこ〟の意味に用いられるようになりました。「横道」は邪道ですから、〝悪い〟意味にも用いられます。横着。横暴。横行。

標は、票と木との会意形声字。人目によくつく〝目じるしの木〟です。標柱。標識。

票は、⿱西火で西と火の形声字で、火の燃え揚がる意味の字です。〝火花〟が本義で〝目じるし〟の意味になりました。「表」や「札」や「券」の意味に使われます。



禾は、稲の穂がみのって垂れ下がっている形の象形字です。音はカ（kwa）。

和は、豊年で、〝稲が十分に口にはいる〟という意味の字で、「平和」を表わす。衣

食足りて礼節を知る。食足りて心が〝なごやかになる〟とはよく庶民の情を表わした字。音は禾がなまってワ（wa）。

利は、禾と刀との会意字です。豊年だと思っても、取り入れ寸前で暴風のために収穫が零になることがあります。取り入れて初めて、「利益」がはっきりします。稲と鎌の意味の刀とで、これを表わしました。

種は、〝よくみのった重い禾〟という意味の会意形声字です。音は重がつまってシュ。収穫した稲の中から、最も大粒の重いものを選んで〝たね〟とします。

穫は、鳥を取る意味の蒦と禾との会意形声字で、〝禾を取ること〟です。動物を取るのは「獲」と言います。

秒は、細く小さい意味の少と禾との会意字で、針のような〝もみの先毛〟のことです。〝微細〟の意味に用いられます。角度や時間で、分の六十分の一、のことを言います。音は、少が変化してビョウ。

秋は、龠の略字の火と禾との会意形声字で、〝禾のみのる季節〟を表わした字です。音のシュウは、火の燃える音です。火は、熟す意味を表わしたものと考えることもできましょう。

科は、米をはかる〝ます〟の象形の斗と禾との会意形声字です。〝米の取れ高の多少を調べて、品質の等級をつける〟ことです。〝品定め〟。転じて、物事を〝分類〟し、〝秩序立てる〟意味に使います。学科。科目。科学。

秩は、窒と同音の失と禾との形声字で、〝収穫した禾を窒（穴倉）に納める〟という意味の字です。きちんと積まなければならないので、「秩序整然」という使い方が生まれました。

移は、禾と多との形声字で、稲が豊かにみのって風にゆれ動く様を言うのが本義ですが、

今では、「逐(うつる)」の仮借字として使われます。収穫が多くてひと所に収容できずに、新しい倉を作って、そこに〝うつす〟のだと解くこともできそうです。

程は、〝呈出する禾(いね)〟という意味の会意形声字です。法規によって、呈出すべき量が決められていますので、転じて〝分量〟、また〝きまり〟の意味になりました。行程。規程。

税は、〝分ける〟〝抜く〟の意味の兌と禾との会意字で、収穫物の中から、祖税として、〝別に分けておく禾(いね)〟という意味の字です。今では金で納めるので税金と言います。

穀は、殼(かく)と禾との会意形声字です。稲のもみ殼をかぶっているのが、穀です。また、稲に限らず、殼をかぶった作物を「穀物」、または「穀類」と言います。

穂は、〝天の恵(めぐ)みの禾(いね)〟という意味の字で、〝稲のほ〟を表わしたものです。会意字。音は〝稲穂が垂れる〟の垂です。

稿は、〝高くのびた稲のくき〟を表わした会意形声字です。〝わら〟のこと。長い茎は実を結ぶための〝下地〟です。それで、書物の〝下書き〟を「稿」と言うようになりました。〝わら〟の意味を表わすのに〝稾〟また〝藁〟という字を作りました。

米

米は、稲穂にもみが付いている形を象った象形字です。実際の米は、もみをついて、殼を取ったものです。胚芽や黒い薄皮の付いたのを玄米と言います。これは保存がききますので積み重ねておくので、粗と言うことは第一部の且で述べました。漢音ベイ、呉音マイ。

粉は、〝米を細かく分ける〟という意味の会意形声字で、〝こな〟のことです。

粋は、粹が本字。砕(くだ)くという意味の卒と米との会意形声字で、〝米をよくついて白げた米〟のことです。「精」と同じ意味の字です。精粋。純粋。

粒は、立(りゅう)と米との形声字で、米の一つぶ一つぶのこと。転じて、「砂粒」「微粒子」な

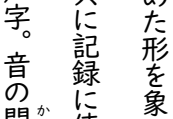
どと使います。

粘は黏が本字。霑（うるおう）の意味の占と黍との形声字で、〝うるおった黍〟の〝ねばる〟ことを表わしたものです。

粧は、妝と同じ〝よそおう〟という意味の庄と米との形声字で、〝米の粉でよそおいをする〟という意味の字です。昔は、米を細かくすりつぶして、これを顔料としました。これが「白粉（おしろい）」です。

糧は、〝はかる〟意味の量と米との会意形声字。〝食料として心要なだけの量の米〟という意味の字です。

糖は、荳（もやし）の意味の唐と米との形声字です。米のもやしから、糖分である〝あめ〟を作ります。



竹は、竹の子の出始めた形を象った象形字です。音はチク。竹を薄く削って作ったふだは、木の札と共に記録に使われました。簡や策がこれです。

簡は、竹と間との形声字。音の間は、刊の意味です。竹を割って削り、干して、これに漆で書きました。〝竹ふだ〟が本義。転じて、〝書物〟また〝手紙〟。さらに転じて、〝軽便（手がる）〟の意味に使われます。竹簡。簡策。書簡。簡単。

策は、竹と束（ɔi）との形声字。音は束がつまってサク。簡をひもでとじた冊を表わしたものです。〝簡に文字を書きつけたもの〟が策の本義です。転じて、〝はかりごと〟の意味に用いられます。策略。対策。

管は竹と官との会意形声字。音の官は、串（貫く）の意味です。竹の節を貫いた〝くだ〟が管です。

範は、竹で作った型という意味の笵と車との会意形声字で、〝車の通る道〟〝軌道〟

が本義の字です。転じて、〝人の行なうべき道徳〟〝手本〟。規範。模範。模は〝木型〟、型は〝土型〟が本義です。

篤は竹と馬の形声字。竹がトクに変化しました。〝馬がトコトコと歩く〟という意味の字で、〝ゆっくり歩く〟ことを表わした字です。転じて、〝慎重〟〝重厚〟の意味に使われます。懇篤。篤志（人情が厚い）。危篤（病気が重い）。

築は筑と木の形声字。地がために、丸太で〝木づく〟こと。筑は、木でつく音を表わしたものです。転じて、〝家〟などを〝建てる〟意味に使います。建築。築港。

符は、竹と付との会意形声字。契約をする時、簡に文字を誌し、これを割って、相手に与（付）えた。これが符です。〝契約の後日のための証拠のしるし〟です。割符。

簿は、竹と薄との会意形声字。薄（ホ・ハク）は、すすきを編んで（縛るので、音は縛）作った〝ずだれ〟のこと（わが国では薄を〝すすき〟と解し、〝すすき〟の意味に使っています）。簿は、竹筒を縛したもので、今の〝帳面〟に当たります。帳簿。名簿。

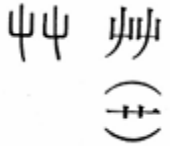
簀は、竹と責の形声字。責が変化してサク。わが国では、つづめて「す」、または「すの子」と呼んでいます。〝竹を編んで作った敷物〟が本義ですが、今では、板を編んで作ったものを言います。

簾は、竹と廉との会意形声字。廉は、家の側面の外界と接する所です。ここに垂れ下げる〝竹のすだれ〟が簾です。〝すだれ〟は〝簀垂れ〟という意味です。「簾中」は、〝すだれの中の貴人〟、という意味で、〝大名の正妻〟の異称に用いられました。

箱は、竹と相との会意形声字。相は、〝助ける〟という意味の字ですが、助ける人あれば必ず助けられる人ありで、二人いなければなりません。「相互」「相対」「相思」というように使います。箱は、〝ふたのある箱〟のことです。上下相逢うはこです。

算は、竹と具の会意字。〝竹で作った計数用具〟のことです〝算木〟。転じて〝数を数

える〟こと。



艸は、草の生（は）えている形を象った象形字で、「草」の本字。草冠の原形です。音はソウ。

草は、早（そう）という音をつけ加えたもので、形声字です。〝粗末〟の意味に使われます。草屋。草案。草競馬。

芳は、あたり（四方）一面が草という意味の字で、〝草の香〟がただよっていることです。〝かんばしい〟こと。また、〝草の放つもの〟と考えることもできます。芳香。転じて敬称に用います。芳名。芳志。

葉は、艹と世と木の会意字です。世は、十を三つ組み合わせた字で、三十の意味です。人間は三十年を〝一世代〟とするというので、「世代」という意味になりました。葉は、草や木にたくさん（世）付いている〝は〟を表わしたものです。「笹」は、竹の葉で、〝ささ〟のことです。

芽は、艹と牙（が）（きば）との会意形声字。草木の〝め〟の出始めの形は牙の形をしているので、芽でこれを表わしたものです。発芽。

若は、艹と右の会意字。〝手で摘み取る草〟という意味の字で、〝わか草〟が本義です。音は、弱（じゃく）（わかい）です。若年（弱年）。

荘は、艹と壮（そう）との 会意形声字。〝盛ん（壮）に草の茂ること〟が本義。転じて、いなかの別宅の意味に使います。別荘。

華は、艹と垂（𠦪）の会意字。花の美しく垂れた形を表わした字です。花の古字です。今は〝草のお化〟の花の方が多く用いられ、この字は、「華美」「華燭」「栄華」など、〝花やか〟の意味に用いられます。

菜は、艹と采（採の本字）との会意形声字。〝摘み採って食べる草〟という意味の字です。食用とする草の総称。〝な〟。野菜。

採は、扌と采との会意形声字。采は爪と木の会意字で〝木の葉や、木の実をもぎ取る〟こと。転じて「采領」「采地」などの用法ができたため、扌を加えるようになりました。採集。採用。

茂は、艹と戊との形声字。草のぼうぼうとしげること。音は戊、呉音はモ。繁茂。茂生。

荒は、艹と巟との会意形声字。巟は、川が氾濫して、地上の動植物を亡ぼすこと。そこに雑草が茂ったのが（荒）です。〝あれ地〟が本義。土地の〝あれる〟ことから転じて〝心のあらい〟こと。荒涼。荒廃。

苦は、艹と古との会意形声字。薬草は干してよく乾燥させて保存します。〝古い草〟とは薬草のことです。〝にがい〟が本義です。転じて〝くるしい〟意味に使います。苦手。苦笑。苦痛。音は古が変化してク。

英は艹と央との会意形声字。〝草の中央〟という意味の字で、〝草花〟が本義。特に、房になって咲く花、〝はなぶさ〟の意味に使われます。今は、「英才」「英雄」などと使います。音は央が変化してエイ。

苗は、〝田に生ずる草〟という意味の会意字で、〝なえ〟のことです。音は、小さいという意味の秒。

荊は、艹と刑との会意形声字。人を責める刺（とげ）を待った〝いばら〟のこと。「荊妻」は、自分の妻を謙遜して言うことば。

荷は、艹と何との形声字で、蓮（はす）のこと。花は「蓮華」、葉は「荷葉」と言います。はすの葉は、物を包むのに使われ、〝包み〟の意味になりました。荷物。出荷。

落は、艹と洛の形声字。草の葉の枯れおちること。各は〝高い所から降下する〟のが本

義の字。

葬は、二つの艹と死との会意字で、〝死体を草原にほうむる〟こと。音は喪。

蓄は、艹と畜との会意形声字。畜は田のすみに穴倉を掘って〝たくわえる〟こと。艹は穀物のこと。五穀をたくわえるのが蓄です。今は、広く「蓄財」「蓄電」と使います。

蒸は艹と烝の会意形声字。烝は水を下から火で熱して、蒸気を立ち上らせること。〝むす〟ことです。音は昇です。蒸は、〝穀物などをむす〟こと。今は単に〝むす〟意味に使われています。蒸発。蒸気。蒸気の方が本義に適った使い方ですが。

蔵は、藏が本字。臧と艹との会意形声字。臧は爿と臣と戈の形声字で、家来が武器を持って守る意味の字。〝家来〟〝よい〟〝おさめる〟の意味に使われます。蔵は、〝穀物などをおさめしまう〟という意味の字です。物をしまう所の「倉」の音は、この蔵の意味です。

薄は、艹と溥（水が溢れひろがること）との会意形声字。〝雑草が一面に生い茂る〟が本義の字。〝やせた土地〟のこと。故に、〝どぼしい〟意味に使われます。薄学。薄情。薄が、雑草を編んで作った〝すだれ〟の意味に使われることは竹の項の簿で述べました。

薬は、苦いが飲めば病気がなおって楽になる〝薬草〟が本義で、艹と楽との会意形声字です。楽が変化してヤク。

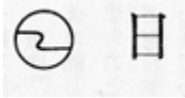
薪は、艹と新との会意形声字です。新は辛と木と斤（斧）との会意形声字で、木を切って作った〝たき木〟が本義の字です。切り口の〝あたらしい〟ところから、「新旧」「革新」という使い方に転用されたため、本義の〝たき木〟を表わすために、たきつけに用いる草を加えて〝薪〟としたものです。臥薪嘗胆。

薫は、艹と熏との会意形声字。熏は火の黒の項に述べてあるように、〝火を燃やしてくすぶる〟意味の字です。薫は、〝芳草をくゆらして、香気を発散させる〟ことです。人

を善導することにも使います。薫風。薫陶。

藩は、艹と潘（はん）との会意形声字。潘は水面にできる〝うずまき〟のこと。藩は、家の周囲を取り巻く〝まがき〟が本義です。封建時代、諸侯は王室の「藩屏（はんぺい）（まがきやへい）」であるというので、諸侯の称になりました。藩主。

■天地自然に関する部首



日は、太陽の象形です。天候を左右し、昔から時刻の基準とされたので、気象、時間に関係する文字の部首となっています。音は、漢音がジツ、呉音がニチ。

旦は、地平線に太陽が現われた形で、〝あさ〟を表わした字です。今では、「元旦」以外にあまり使われないようですが、もっと使われてよい字だと思います。旦夕（朝夕）。

早は、旦と全く同じ着想の字で、〝朝はやい〟の意味を表わしています。十は艹の略形でソウの音を表わしています。この〝はやい〟は時期的な早さのことで、その反対は「晩」です。「早春」「晩春」。速さは、「速い」「遅い」と使います。

晩は、〝のがれる〟意味の免（べん）と日との会意形声字です。日がのがれ去る、とは〝日が沈む〟ことで、「早」に対する言葉です。〝おそい〟が本義の字です。時期的には〝夕ぐれ〟を言います。晩鐘。晩餐。晩年。

旬は、包（人の勹の項参照）の勹と日との会意字で、〝十日を一包みにする〟という意味の字です。昔は、十干十二支で日を表わしました。十干は十日で一巡しますので、十日を「巡」と言い、字形を旬で表わしたのです。

昇は、上の意味の升と日との会意形声字で〝日が上る〟こと。昇天。昇進。昇降。

易は、[illegible]で、とかげの象形。日の光を受けて色が変わるので、〝かわる〟という意味に使われます。貿易。交易。〝とかげ〟は虫を加えて「蜴」。

星は、古体は[illegible]で、星の象形と生の形声字。今の形からは、〝太陽から生まれた惑星〟と考えることもできます。

映は、英の省略された央と日との会意形声字で、〝日の光に照りはえて物の姿が美しく見える〟という意味の字です。〝映える〟〝うつる〟。

昨は、阻と同音の乍と日との形声字で、〝一日へだてた日〟を表わしています。音は乍です。転じて、「昨年」というようにも使います。

是は、正の変形した疋と日との会意形声字です。〝太陽の運行のように正しい〟という意味の字で、〝正しい〟という意味を表わしています。是認。是非。是正。

昼は、晝が本字。晝（[illegible]）と日の会意字と見ることができます。[illegible]は、太陽の出ている時を画したもので、〝ひる〟を意味します。

普は、並と日との会意形声字。〝日が何日も並ぶ〟という意味で、〝平生〟〝普段〟という意味を表わした字です。「普通（並み）」。音は並がつまってフ。

景は、日と京との会意形声字。京は、[illegible]で、丘の上に高くそびえる宮殿の象形字です。太陽をそれになぞらえて、〝高い空に輝く太陽〟というようにたたえたのが景の字です。〝太陽〟が本義で、〝陽光〟、転じて〝ありさま〟の意味に使われます。光景。景色。

暁は、〝高い〟意味の堯と日との会意形声字で、〝日の高く上る〟夜明けの意味を表

わした字です。〝あかつき〟。

暇は、〝借りる〟意味の叚と日との会意形声字で、〝日を借りる〟という意味の字です。「休暇」とは、公事をすべきだが、借りて私事に使わせてもらう、という気持の言葉です。

暖は、緩（ゆるやか）の意味の爰と日との会意形声字。〝おだやかな日〟の意味で、〝あたたかい〟ことを表わしました。

緩は、爰と糸との会意形声字です。爰は、爪（手）と于と又（手）の会意字で、両方から物を引っ張って伸ばす意味の部首。〝糸をゆるめる〟のが本義です。

暫は、〝日を斬る〟という意味の会意形声字。日数が少なくなるので、〝わずかの期間〟。つまり〝しばらく〟という意味になります。暫時。暫定。

月は、半月の象形です。まん丸い時もありますが、欠けている時の方が多い。太陽に比べてそこが特徴です。音は欠という意味です。

朗は、〝良い月〟という意味の会意形声字です。音は良。晴れた空に満月で、〝あきらか〟〝ほがらか〟の意味に用います。朗月。明朗。朗読。

期は、其（箕の本字）と月との会意形声字。箕は米や麦をふるって良い物を〝選別する〟道具です。昔は、庶民はこよみを待たないので、月の欠け具合で、日を知りました。月は日日を意味します。期は、〝会う日日を選定する〟ことを表わした字です。〝約束の日〟〝日を決めて会う〟〝約束する〟〝決心する〟などの意味に用いられます。期日。期待。

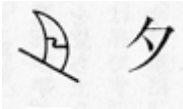
望は、<u>臣</u>、<u>朢</u>、望と変化してきています。<u>王</u>は、呈の王で、<u>亡</u>。<u>臣</u>は、番兵が目を見張って遠くを〝のぞむ〟意味の字。<u>朢</u>は、〝月を望む〟意味の字で、〝満月〟の意味も生まれました。望は、臣（目の臣の 項参照）の代りに音を表わす亡を入れたものです。〝の

ぞむ〟が本義で、〝満月〟は転義。希望。望月（もちづき）。

有は、ナ（手）と肉月の会意形声字で、音は又です。右手に肉を持つ形で、〝もつ〟が本義。所有者。転じて〝ある〟。有徳者。

服は、令の卩（第一部参照）と又と舟月の会意字。〝天子の卩を手にして任地へ向かう〟ことを表わした字です。「服従」が本義の字です。「南船北馬」と言って、舟は交通機関の最も重要なものでした。「服務」から転じて「服用」「服装」の用法が生まれました。

朝は、卓と舟月との形声字で、草の間に太陽が見える〝あさ〟を表わした字です。音は舟が変化してチョウ。今の字形からは、〝月が沈んで、代って日が上る〟意味に取れます。

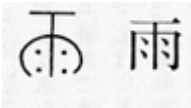


夕は、半月が山から半分のぞいている形の字です。〝夕ぐれ〟を表わした字です。夜の初めです。音は寂（しずか）。

外は、亀卜のトと欠ける意味の月との会意字です。〝亀卜の割れ目（欠）〟は〝そと〟に表われるので、〝そと〟の意味を表わしたものです（貝の貞を参照）。音は割。

多は、夕べを重ねる意味の会意字です。〝おおい〟こと。

夢は、瞢と夕との会意形声字。漢音はボウ、呉音はム。**目**は、目が覆われて全く見えない意味、**罒**は、ぼんやり見える意味。事実は目で見ないのだが、ぼんやりと見ているような感じの〝ゆめ〟をよく表わしている字です。



雨は、空から垂れ下がった雲間から水滴の落ちる形を象った象形字です。音は宇（う）（そら）です。国語の〝あめ〟は天（あめ）であるのと同じです。

雲は、〝くも〟の象形の云（うん）に雨を加えた会意形声字です。〝雨ぐも〟が本義。

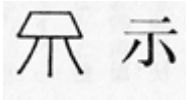
需は、あごに垂れた鬚（ひげ）の象形である而と雨との会意形声字。〝雨だれ〟が本義。転じて〝ぬれる〟意味がある（襦を参照）。〝もとめる〟の意味は、同音の須（しゅ）（鬚の本字であり、而とも同音同義）の仮借です。需要。必需。

霊は、靈が本字です。巫（みこ）が神霊を呼び降して、雨乞いの祈禱を唱える、という意味の字で、〝神のみたま〟を表わした字。音は零（れい）（令を参照）。

露は、雨ではないが、雨粒のように路上に置かれる〝つゆ〟のことです。音は路（ろ）。

霜は、雨と相の形声字。相（しょう）は冰（ひょう）の意味。少（しょう）が秒（びょう）、眇（びょう）と変化したのと同じ例。〝雨のこおったもの〟の意味で、〝しも〟を表わしました。

霧は、雨と務（む）の形声字。務（む）は無（む）の意味で、有るようで無く、無いようで有る〝きり〟を表わしたと思われます。「雷、電、震」は、第二章の辰の項。



示は、祭段の机の象形で、犠牲を載せて神に供えるので、〝神〟の意味の部首として用いられます。音は載（さい）（si）の意味のシ。

「神」「社」は第二章、辰の項。

礼は、神前にひざまずき、「拝礼」している形の字です。後、音を 表わす豊（れい）との形声字、禮が作られましたが、今はまた古い形にもどりました。

祈は、ネと斤の形声字。斤の音は幾（き）、覬（き）、希（き）で、〝のぞむ〟こと。神に〝いのる〟ことです。

祉は、ネと止の会意形声字。〝神の恵みがわが身に止まる〟という意味の字で、〝さい

わい〟。「福祉」。

祝は、神官が神に祈りを告げる意味の兄とネとの会意字。〝神官〟〝祝詞（のりと）〟〝いわう〟などの意味に使われます。

祥は、ネと羊との形声字。羊の音は変化して詳。羊を犠牲として神前に供え、〝さち〟を受けること。さいわい。吉祥。瑞祥。

禍は、過失の意味の咼とネとの会意形声字で、〝人間の過失に対して神の下す罰〟という意味の字です。〝神のとがめ〟〝わざわい〟。

祭は、肉の意味の月と又（手）と示との会意形声字です。肉を神前に捧げて、〝まつる〟ことを表わしています。音は示（si）。

禁は、林と示との形声字。音は林が変化してキン。この音は忌を表わしています。〝神〟を祭る時の〝いみごと〟が本義で、〝避ける〟〝やめる〟という意味に使います。

火は、火の燃えている形を表わしたもので、脚となったときには「灬」となります。

灰は、灰が本字。手の意味の广と火との会意字で、上から手でおさえられることを表わした字です。火の燃え尽きて〝はい〟となった状態を表わしています。

災は、わざわいの意味を表わす巛の略字の巛と火との会意形声字で、〝火のわざわい〟という意味の字。巛は、川の流れのふさがった形で、〝氾濫のわざわい〟を表わした部首です。音は塞（ふさがる）です。

炉は、爐の新字体です。家（戸）の中で火を燃す所という意味の会意字です。音は盧。

炭は、山の崖の意味の屵と火との会意形声字です。〝すみ〟は、山の中腹で、焼いて作ることを表わしています。

烈は、はげしい意味の列と灬との会意形声字で〝火勢のはげしい〟という意味の字です。

烈火。転じて烈日。烈風。

焦は、〝鳥（隹）を焼く〟という意味の会意字です。〝こげる〟意味に使いますが、音は「焼（しょう）」です。

煩は、頭の意味の頁と火との会意字で、〝わずらわしい〟ことがあって〝頭がかっかとする〟、という意味の字です。音は、繁雑の「繁（はん）」です。煩雑（繁雑）。

焼は、燒が本字。堯（日の暁参照）と火との会意形声字。〝火が高く燃え上がる〟こと。〝やく〟こと。音は堯（ぎょう）がなまってショウ。

熱は、勢の意味の埶と灬との会意字。火が勢いよく燃える、という意味の字で、〝あつい〟ことを表わしています。

燈は、高きに登る意味の登（とう）と火との会意形声字。高い所から照らすための〝ともし火〟のことです。

爆は、〝はげしい〟意味の暴（ぼう）と火との会意形声字。〝はげしく燃える〟という意味の字です。音は、慣用音でバク。爆発。爆破。「火薬」の意味に多く使われています。

水は、川の水の流れる形を表わしたものです。扁の氵は、その省略した形です。脚の場合は氷となります。音はスイ。

永は、〰で、川の分流する所を表わした字。支流を持った〝長流〟の意味の字で、〝ながい〟という意味を表わしました（脈の項参照）。

汁は、氵と十（じゅう）との形声字。ジュースも汁の仲間でしょう。胆汁。果汁。墨汁。

汽は、蒸気の立ち上る象形の〰と気（き）と氵との会意字で、〝水蒸気〟のこと。

決は、缺（けつ）ける意味の夬と氵との会意形声字です。下流の氾濫を軽減させるために、〝上流の堤を切る（決壊）〟ことです。これは大変に判断のむずかしいことなので、「決心」

「決断」を必要とするのです。

沈は、人が家にこもって〝しずんでいる〟意味の冗（ちん）と氵との会意形声字で、〝水にしずむ〟こと。頭の下に沈む木が「枕」です。

油は、由（ゆう）という川の名です。この流れはとろりとして、波一つ立たないので、〝どろりとした液体〟〝あぶら〟を表わすようになりました。

沸は、フツフツとわき立つ音を表わす弗と氵との形声字。沸騰。煮沸。

治は、台（ち）と氵との形声字。台は致（ち）で、〝ほどよくし〟〝整える〟意味。中国では洪水が多く「治水」が国を〝おさめる〟ことでした。

法は、水の低きについて流れ去るように、無理のない〝正しい生活のよりどころ〟を表わした字と考えてよいでしょう。本字は灋で、薦（薦の項参照）と氵と去との会意形声字です。薦は君主の刑罰が正しく行なわれている時に、朝廷に生まれると言われる神獣です。この神獣と水の自然の理法に適った姿とで、〝おきて〟のあるべき姿を表わしています。音は去が変化してホウになりました。

波は、表面の意味の皮と氵との会意形声字で〝水面に生ずるなみ〟を表わしています。音は皮（ひ）が変化してハ。

泳は、〝水中に永くいる〟という意味の会意形声字です。音は永（えい）。〝およぐ〟ことです。

泣は、人の立っている形の立と氵との会意形声字。目から水を出すのは〝なく〟ことです。音は立（りゅう）が変化してキュウ。

温は、溫が本字。囚人に食べ物を与えることで、心のあたたかいことを表わす囚と氵との会意形声字。〝あたたかい水〟〝水をあたためる〟が本義。

渡は、〝はかる〟意味の度（と）と氵との会意形声字です。水の深さをよくはかってから〝わたる〟のです。

渉は、水中を歩いて〝わたる〟という意味の字です。渡渉。

測は、きまりの意味の則と氵との会意形声字です。長さのきまりである物指しで、水の深さを〝はかる〟ことです。測定。測量。

源は、原が本字です。厂と泉との会意形声字で、水の湧き出る〝水源〟が本義の字です。転じて、崖の上の平らな所を「原」というようになったので、氵を加えて「源」を作りました。高くて平らな所は原（高原）、低くて平らな所は野（平野）です。「原野（野原）」は両者を含めて言ったものです。

冫は、氷に見える〝すじめ〟の形で、〝こおり〟の意味を表わしたものです。

〝氷〟が本義で、〝寒い〟意味にも用いられます。

冰は、冫と水との会意形声字。〝水がこおる〟という意味の字で、〝氷〟の本字。

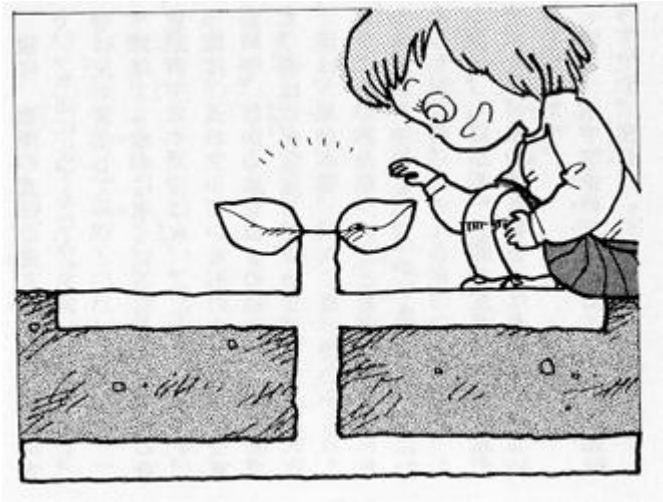
氷は、冰の略字。水と丶の指事字で、水の固まったことを示したものです。

凍は、冫と東との形声字で、〝こおる〟という意味の字。音の東は冬。凍死。凍結。

凝は、冫と疑との形声字で、氷の〝かたまる〟意味を表わした字です。音は疑がのびてぎょう。凝固。凝結。凝視（じっと見つめる）。

冬は、古い形は。は、家の周囲を閉じた形で、氷と合わせて〝さむい冬〟を表わしています。音は終がなまってトウ。

寒は、古い形は。家の中を枯草で囲い、その中に人がいる形に氷を加えて、〝さむい〟という意味を表わしたものです。



土

土は、草木の芽が地上に出始めた形を象ったもので、〝つち〟を表わしています。音は地上に物を吐き出す意味の吐。

在は、才土で、才と土との会意形声字。才は、草木の芽がわずかに地上に出た形で、〝わずかだが確かにある〟という意味を表わしています。音は才。

地は、〝へび〟の本字の也と土との会意形声字。へびのようにうねっている大地、という意味の字です。音は蛇が短かく発音されてジ。

池は、城壁の周囲を蛇のようにとり巻いている川のことです。「他」は〝蛇のようないやな人〟が本義で、〝あいつ〟という意味の字です。転じて〝よその人〟。

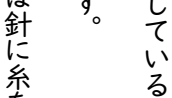
坪は、家を建てるために〝平らにならした土地〟という意味の字で、転じて、土地や建物の広さを表わす単位になりました。音は平。

城は、土を盛り上げて作った「城壁」が本義の会意形声字です。音は成（漢音はセイ、呉音はジョウ）。傾城。落城。

堀は、屈と土との会意形声字。掘は、体を屈

曲させて手を使う、という意味の会意形声字で、〝ほる〟ことを表わした字。土を掘り起こして作った溝が堀です。

境は、竟（きょう）と土との会意形声字。竟は、章と儿（人）の会意形声字。章は、基本数の最後である十と音とで、〝音楽が完結する〟ことを表わした字です。楽章。人が音楽を〝奏し終える〟のが竟の本義。〝終り〟という意味を表わします。畢竟（ひっきょう）（とどのつまり）。〝土地の終わる所〟が境です。鏡は、実体と映像との境さかいの金属という意味です。



金は、土の間に混入している金属の塊を表わす■と今（きん）との形声字で、〝金属〟の意味を表わした字です。

針は、十が本字。十は針に糸を通した象形です。十の音が数字の十（じゅう）（八十寺（はっしんじ））の例で分かるように十（じゅう）は十（しん）と読む）と同じだったので、この字は専ら数字として使われ、そのため金を加えて作った字です。

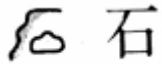
釘は、丁が本字。丁が釘の象形です。針と同じように、本字が別の意味に仮借として用いられたために、金を加えました。

鉱は、金と広との会意形声字。鉱石を掘り出す坑内の広（ひろ）くがらんとしていることから、〝坑内〟を鉱と言ったものです。〝鉱山〟が本義に近い用法です。今は鉱山から掘り出された〝金属を含んだ石〟の意味になりました。

錯は、借りる意味の昔と金との形声字。一つの金属の上に、他の金属を〝借り〟てかぶせる、という意味で、〝めっき〟のこと。二つの金属がまじるというので、転じて〝いりまじる〟〝まじわる〟意味になりました。音は、昔（せき）が変化してサク。交錯。錯覚。

錠は、扉が開かないように、固定させるための〝金具（かなぐ）〟を表わした会意形声字です。これは、わが国で作り出した用法です。

錦は、〝金糸銀糸を織り込んだ帛〟のことで、金と帛との会意形声字です。〝にしき〟。「錦を衣て故郷に還る」「錦を衣て夜行く」「錦上に花を添う」「錦を衣て絅を尚う」



石は、口が石の象形。これでは口と同じになるので厂の部首を加えました。会意字です。音は積、碩です。言葉の意味は、〝ごろごろと積み重なっているもの〟ということです。

碑は、石と、牌との会意形声字。牌（hi）は低い意味の卑と、木の切れの意味の片との会意形声字で、〝低い所に掲げられた小さな掲示板〟が本義の字。位牌。骨牌。碑は、それが石でできたもの、〝いしぶみ〟。石碑。墓碑。

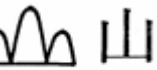
礎は、石と楚の形声字。楚（漢音はショ）は初と同音で、ここではその意味を借りて、家を建てる時の「初めの石」、〝土台石（いしずえ）〟を表わしたものです。「基」は、土合の土を堅めること。その上に置く石が「礎」です。基も礎も、共にしっかりとしないと、建物がしっかりしませんので「基礎」という熟語が生まれました。

磁は、石と茲との会意形声字。茲は、草の〝ますます茂る〟意味の部首。鉄を吸いつける鉱石を、ふえる意味の茲と石とで表わしたもの です。

滋は、草が水を得て、ますます〝しげる〟意味の会意形声字です。人の名では〝しげる〟。「滋養」「滋味」〝うるおう〟意味にも使います。

慈は、植物を育てる〝やさしい心〟を表わした字です。いつくしむこと。慈愛。慈悲。慈善。

山



山は、山の象形です。音はサン。呉音はセン。金剛山（こんごうせん）。大山（だいせん）。

峠は、山を上りつめて下る所、〝とうげ〟を表わした会意字です。わが国で作った漢字ですから、音はありません。

岐は、〝山の尾根の分かれる所〟を表わした字で、〝分かれる〟こと。支（し）（支の項参照）と山の会意形声字。音は支（し）が変化してキ。

峡は、山と夾（きょう）との会意形声字。夾（きょう）は、夾で、人が両わきに子供をかかえた形で、〝はさむ〟こと。〝山と山にはさまれた所〟が峡です。

挟は、〝手ではさむ〟こと。「鋏」は、金属で作った〝はさみ〟（わが国だけの使い方）。「頬」は、左右から顔面をはさんでいる〝ほお（ほほ）〟。「莢」は、豆をはさんでいる〝豆がら〟。弱い人を助けかかえてやる人が「侠（客）」です。

岳は、丘（おか）と山の会意字。丘は𠂤で、横に広くて、上の方が聳えていない形の〝小山〟です。岳は、丘の形の大きい山を言います。音は獄（がく）。嶽は岳と同音同義の字。

崇は、山と宗との会意形声字。宗（宀の宗の項参照）は本家ですから、〝本家の山〟〝一番高い山〟のことで、転じて〝気高い〟という意味に使います。崇高。崇拝。

島は、鳥と山との会意形声字で、音は鳥（ちょう）の変化したトウ。海中、鳥の住む所の〝しま〟を表わしたものです。「嶋」とも書きます。

田

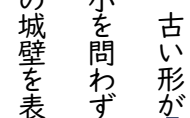
田は、整然と区画された〝た〟の象形です。中国では〝だ〟も〝はたけ〟も田で表わしています。わが国では、田は「水田（すいでん）」で、稲を作る所。他の作物を作る〝はたけ〟は「畑」「畠」という字を作って、これを表わしました。

画は、畫で、田の境界をはっきりさせる意味を表わした字です。〝区切る〟こと。区画（くかく）。計画（けいかく）。転じて、〝絵〟名画（めいが）。

留は、卯（りゅう）と田の形声字で、〝田んぼに止まって見張りする〟ことを表わした字。今は、〝とどまる〟意味に用います。留学。留任。

畔は〝田を両方に分かつ、まん中の道〟を表わした会意形声字です。〝あぜ道〟。転じて「湖畔」「河畔」（ほとり）。

界は、分ける意味の介（かい）と田との会意形声字で〝田を分けるさかい〟のことです。



邑は、古い形が𠂤で、囲みを表わす口と人との会意字です。中国では、聚落の大小を問わず、その周囲に城壁を築いて、野盗の襲撃から守りました。口はその城壁を表わしたものです。部首としては、邑が省略されて阝になりました。〝村落〟から、〝都市〟〝州国〟の意味に使われます。旁に使われて「大里」と呼ばれています。

邦は、阝と丰（ほう）との形声字で、〝くに〟の意味の字です。小さいのを国、大きいのを邦とした時代もありましたが、今では同じように使います。友邦。連邦。

郊は、〝邑と邑との交わる所〟という意味の字で、一つの邑を出はずれて、次の邑に近い所を表わした字です。〝町はずれ〟近郊。

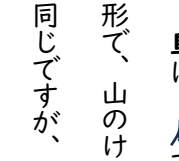
郡は、〝邑の群〟であり、またそれを統一する〝君主のいる邑〟でもあります。阝と君または群との会意形声字です。〝多くの邑の集合体〟。秦の始皇帝は、全国をいくつかの郡に分け、それぞれに王を派遣して治めさせました。これが郡県制度の始まりです。

郷は、𠬝（𠬝）と皀（きょう）との形声字です。普通の邑を二つほど合わせたほど〝大きい邑〟という意味の字です。自分の住む邑を中心として付近の邑を含めた地域をさす名称です。近郷（きんごう）。故郷（こきょう）。

部は、解剖の意味の音と阝との会意字です。邑をいくつかに〝切り分け〟て、その分か

れた小さな聚落が〝部〟です。部落。転じて、〝区分け〟の意味に使われ、「野球部、卓球部」「総務部、渉外部」などと使います。

郵は、辺境の意味の垂と阝との会意字で〝辺境の宿場町〟が本義の字です。転じて、〝宿駅〟は伝達を取り次ぐところから〝文書を運ぶ〟意味になりました。郵送。郵便。



阜は、 で、崖の地層の様子を象った字です。阝（ ）はその省略した形で、山のけわしい斜面、〝がけ〟の意味の部首です。「大里」とは形は全く同じですが、そのもとは全く異なっており、意味が違いますから、注意することが大切です。

防は、四方に人工の崖、つまり城壁を築いて敵を〝ふせぐ〟ことです。阝と方（ほう）との会意形声字です。中国の都市の構造をよく表わした字です。

院は、〝完全な防壁〟をめぐらした建物のことです。今では、〝大きな建物〟〝りっぱな建物〟という意味に使います。病院。学院。

陣は、軍（車の軍項）帥（巾の帥および師）で説明したように、軍隊は兵車を中心にし、小高い丘に〝じん〟を立てました。阝と車の会意字です。〝軍隊のそなえ〟。

陥は、で、崖のわきにある、落とし穴に人がおちいったことを表わした会意字です。〝おちいる〟こと。陥落。陥没。

陰は、阝と㒸（きん）との会意形声字。㒸は、今（きん）と云（雲の本字、雨の雲の項参照）との形声字で、〝曇って日光がよくささない〟意味の字。陰は、〝日当たり悪い北向きの崖〟が本義の字です（第一章易の陽を参照）。山の北側が山陰、川では反対に南側が陰です。中国の古い都の洛陽は洛水という川の北側にあったので、この名が付けられたのです。

階は、阝と皆との形声字です。皆の比（人体の比の項参照）は人の並ぶ形なので、同じ

ものが続く意味があります。階は、登るために〝崖につけられた階段〟が本義で、堂に上る段を言うようになりました。転じて、「階級」という使い方が生まれました。

陛は、阝と坒（へい）との会意形声字。坒は、土の段段を並べて積む意味の字です。天子が天を祭るため、郊外に祭壇を作りますが、これに登る段が土の段、つまり陛なのです。天子を「陛下」と呼ぶのは、これから起こったものです。

隣は、鄰（りん）が本字。粦と邑との形声字で〝となり村〟が本義の字。邑の意味が失われたためか、これだけが小里扁になってしまいました。これでは、崖に関係のある字と誤られますので、やはり、もとの字に改めたいものです。